

2026/04/22

自己点検・評価報告書

2024 年度



開志専門職大学

2025 年 12 月

目 次

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革	2
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価	4
基準 1. 使命・目的	4
基準 2. 内部質保証	6
基準 3. 学生	12
基準 4. 教育課程	24
基準 5. 教員・職員	32
基準 6. 経営・管理と財務	43
IV. 大学が独自に設定した基準による自己評価	48
基準 A. 臨地実務実習	48
基準 B. 地域社会への貢献	51
V. エビデンス集一覧	53

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

1. 建学の精神

①自学 ②挑戦 ③創造 ④貢献

①「教育を受ける」にとどまらず、自ら課題を設定し、自ら学ぶ人間になる。

②指示待ち人間ではなく、自らの判断で一步前に踏み出す勇気のある人間を目指す。

③物事の大小を問わず、それぞれの分野、職業で独創性、創造性を発揮する人材となる。

④地域、日本、世界で活躍し、社会の発展に貢献する人間となる。

2. 大学の目的

開志専門職大学（以下「本学」という。）は、専門分野における高度で実践的な専門性を身に付けると同時に、変化に対応する能力や生涯にわたり学び続ける力を備え、創造力と実践力をもって、新たな価値の創造を先導する人材を育成することにより、地域、日本、世界の発展に寄与することを目的とする。

3. 学部・学科の目的

（1）事業創造学部

事業創造学部では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「経営学分野」として、「経営分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係力に根ざした実践力を高めるとともに、課題を探求し解決する基礎的な能力を養い、地域の資源を新商品や新サービスの開発に活用できる創造的な能力を育てる」ことを教育上の目的とする。

事業創造学部では、「職業人としての倫理観や道德意識、起業家精神などを身に付け、起業家、事業承継者、企業内起業家として、事業活動や商品開発を行うために必要となる専門的な知識と能力に加えて、地域の魅力や特徴に関する知識を有し、地域の資源を新商品や新サービスに活用するための能力と消費者の視点に立って正しく問題を解決するための考え方を身に付けて、地域経済の活性化に貢献できる人材」を養成する。

（2）情報学部

情報学部では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係力に根ざした実践力を高めるとともに、課題を探求し解決する基礎的な能力を養い、情報技術を生活様式や様々なサービスなどの充実と向上に活用できる創造的な能力を育てる」ことを教育上の目的とする。

情報学部では、「職業人としての職業観や倫理観、豊かな人間性ととともに、情報技術者としての専門的な知識や技能と実際に活用する能力に加え、地域社会や産業界を取り巻く現状に関する知識を有し、正しく問題を解決するための考え方とユーザーの視点に立った新商品や新サービスを企画・開発するための基礎的な能力を身に付けて、地域社会の情報化に貢献できる人材」を養成する。

（3）アニメ・マンガ学部

アニメ・マンガ学部では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「アニメ・マンガ分野」として「アニメ・マンガ分野の専門的な知識と技術及び技能の定着と実践力の深化を図り、実社会や職業とのかかわりを通して、高い職業意識や職業観と規範意識、人間関係力に根ざした実践力を高めるとともに、アニメ・マンガ分野を探究する思考力を身に付け、日本のアニメ・マンガ分野の作品の質、文化的・学問的水準、産業的価値の向上に活用できる創造的な能力を育てる」ことを教育上の目的とする。

アニメ・マンガ学部では、「職業人としての人間性と教養を身に付け、アニメ・マンガ分野を支える基礎知識と技能、それらに裏付けられたより高度かつ専門的な知識と制作技術にもとづく実践力を有することに加え、他分野の物語芸術を探究することや、作品の企画から制作までを俯瞰できる企画プロデュース能力及び商業的価値を活かすことで、日本のアニメ・マンガ分野の作品の質、文化的・学問的水準、産業的価値を向上させることに貢献できる人材」を養成する。

II. 沿革

1995 年 3 月 学校法人新潟総合学院設立認可。

下記の学校を宗教法人愛宕神社より学校法人新潟総合学院に設置者を変更。
新潟デザイン専門学校、新潟ビジネス専門学校、NSG 高校進学予備校（各種学校）、長岡情報ビジネス専門学校、郡山情報ビジネス専門学校（福島）、新潟コンピュータ専門学校、新潟国際情報学院（高等専修学校）、アップル外語観光カレッジ

1997 年 4 月 新潟会計ビジネス専門学校を開校

1999 年 4 月 新潟公務員法律専門学校を開校

全日本ウインタースポーツ専門学校を開校

郡山テクノデザイン専門学校を開校（福島）

2000 年 4 月 日本アニメ・マンガ専門学校を開校

国際ビューティモード専門学校開校

アップル外語観光カレッジの校名を国際エア・リゾート専門学校に変更

2001 年 3 月 新潟国際情報学院（高等専修学校）を廃止

NSG 高校進学予備校（各種学校）を廃止

2002 年 4 月 国際情報工科専門学校を開校（福島）

国際メディカルテクノロジー専門学校を開校（福島）

2003 年 4 月 国際ビューティ・ファッション専門学校を開校（福島）

2004 年 4 月 国際アウトドア専門学校を開校

国際エア・リゾート専門学校を学校法人国際総合学園へ設置者変更

2005 年 4 月 郡山テクノデザイン専門学校の校名を国際アートデザイン専門学校に変更

2006 年 4 月 全日本ウインタースポーツ専門学校に高等課程を設置

2008 年 4 月 伝統文化と環境福祉の専門学校を開校

2009 年 4 月 国際アウトドア専門学校の校名を国際自然環境アウトドア専門学校に変更

国際情報工科専門学校の校名を専門学校国際情報工科大学校に変更

開志専門職大学

- 2013 年 4 月 国際アート& デザイン専門学校に高等課程を設置
長岡情報ビジネス専門学校を長岡公務員・情報ビジネス専門学校に変更
長岡こども・医療・介護専門学校を開校
- 2015 年 1 月 上越情報ビジネス専門学校を設置者変更にて取得
郡山情報ビジネス専門学校の校名を郡山情報ビジネス公務員専門学校に変更
上越情報ビジネス専門学校の校名を上越公務員・情報ビジネス専門学校に変更
- 2017 年 4 月 郡山情報ビジネス公務員専門学校の校名を国際ビジネス公務員大学校に変更
国際アート&デザイン専門学校の校名を国際アート&デザイン大学校に変更
国際メディカルテクノロジー専門学校の校名を国際医療看護福祉大学校に変更
専門学校国際情報工科大学校の校名を国際情報工科自動車大学校に変更
国際ビューティ・ファッション専門学校の校名を国際ビューティファッション・製菓大学校に変更
- 2018 年 3 月 全日本ウインタースポーツ専門学校の高等課程を廃止
- 2018 年 4 月 国際ビジネス公務員大学校, 国際アート&デザイン大学校,
国際医療看護福祉大学校, 国際情報工科自動車大学校, 国際ビューティファ
ッション・製菓大学校を学校法人国際総合学園へ設置者変更
- 2019 年 4 月 新潟法律大学校 開校
新潟ビジネス専門学校, 新潟コンピュータ専門学校, 新潟デザイン専門学校,
新潟会計ビジネス専門学校, 全日本ウインタースポーツ専門学校,
新潟公務員法律専門学校, 日本アニメ・マンガ専門学校,
国際ビューティモード専門学校, 国際自然環境アウトドア専門学校,
新潟法律大学校を学校法人国際総合学園へ設置者変更
- 2019 年 10 月 伝統文化と環境福祉の専門学校を学校法人国際総合学園へ設置者変更
- 2020 年 4 月 開志専門職大学 開学
設置学部学科： 事業創造学部事業創造学科、情報学部情報学科
- 2021 年 4 月 開志専門職大学アニメ・マンガ学部アニメ・マンガ学科を設置
- 2022 年 4 月 上越公務員・情報ビジネス専門学校, 長岡こども・医療・介護専門学校,
長岡公務員・情報ビジネス専門学校を学校法人国際総合学園へ設置者変更
- 2025 年 4 月 開志創造高等学校 開校

Ⅲ. 評価機構が定める基準に基づく自己評価

基準 1. 使命・目的

1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映

- ①学内外への周知
- ②中期的な計画への反映
- ③三つのポリシーへの反映
- ④教育研究組織の構成との整合性
- ⑤変化への対応

(1) 1-1 の自己判定

「基準項目 1-1 を満たしている。」

(2) 1-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①学内外への周知

大学の理念・目的は、設置認可申請書に基づき学則に明記している。さらに、各学部別に定めた学部の目的は、育成する人材像を明確にし、毎年全学生および教職員に配付される Campus Guide 【1-1-a】にも記載することで、大学および学部の目的を学内に適切に周知している。また、学外に対しても、大学ホームページ【1-1-01】でこれらの情報を公開している。

②中期的な計画への反映

- ・本学では 2023 年度に「開志専門職大学 将来計画 (Kaishi Vision 2032)」を策定し、長期目標 (2023 年度～2032 年度)、第 1 期中期目標・中期計画 (2023 年度～2027 年度)、およびアクションプラン (2023 年度～2025 年度) を定めている。これにより、大学の使命や目的、および教育研究上の目標を中期的な計画に的確に反映している。【1-1-b】

③三つのポリシーへの反映

- ・「事業創造学部」、「情報学部」、「アニメ・マンガ学部」の 3 学部では、本学の目的及び育成する人材像、人材育成方針、学部・学科の目的を反映して学部ごとに三つのポリシーを定めている。
- ・各学部の三つのポリシーの策定・見直しに際しては本学の目的、学部・学科の目的との整合性を図っている。【1-1-c】、【1-1-d】

④教育研究組織の構成との整合性

- ・本学の建学の精神・目的を達成するために、学則に基づき、事業創造学部「事業創造学科」を、情報学部「情報学科」を、アニメ・マンガ学部「アニメ・マンガ学科」を設置 (学則第 6 条) している。【1-1-d】

⑤変化への対応

- 本学は2020年に開学し、開学4年目を迎えた2023年に向こう10年間を見据え、「開志専門職大学将来計画（Kaishi Vision 2032）」を策定した。【1-1-b】
この「開志専門職大学将来計画（Kaishi Vision 2032）」で長期目標を明示し、中期目標及びアクションプランを定めている。【1-1-b】
- 本学では各学部に「教育課程連携協議会」（学則第24条）を設置し、産業界や地域社会と連携を図っている。その「教育課程連携協議会」の中で、各分野の動向や要望を教育課程に反映させることで、実践的かつ専門的な知識・技能を備えた専門職人材の育成を目指し、教育課程の編成とその円滑かつ効果的な実施に努めている。【1-1-e】

[エビデンス集（資料編）]

【1-1-01】 建学の精神と大学の目的 <https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>

【1-1-a】 KAISHI Campus Guide 2024（表紙ウラと隣の頁、p.146）

【1-1-b】 開志専門職大学 将来計画（Kaishi Vision 2032）

<https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/kaishi%20vision%202032.pdf>

【1-1-c】 KAISHI Campus Guide 2024(表紙ウラと隣の頁、pp.25-27、pp.75-76、p.146)

【1-1-d】 開志専門職大学学則（第6条）

【1-1-e】 開志専門職大学教育課程連携協議会規程

基準 2. 内部質保証

2-1. 内部質保証の組織体制

①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

(1) 2-1 の自己判定

「基準項目 2-1 を満たしている。」

(2) 2-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立

- ・本学では内部質保証に関する組織として、将来計画機構、内部質保証機構、学外評価委員会の 3 組織を設置し、それぞれ運営委員会を設けて機構の運営を行っている。さらに内部質保証機構では、機構の運営を行うための運営委員会とは別に、自己点検・評価報告書を作成するための委員会として自己点検・評価委員会を設置してその責任体制を明確にしている。【2-1-01、2-1-02、2-1-03、2-1-04、2-1-a】
- ・内部質保証機構と将来計画機構の設置により、本学の内部質保証を推進する PDCA サイクルとして、P を将来計画機構、D を各学部やセンター及び委員会と事務局、C は内部質保証機構内に設置した自己点検・評価委員会、A は内部質保証機構が担う体制が整備されている。さらに、内部質保証機構が毎年作成する「自己点検・評価報告書」を定期的に評価する外部組織として学外評価委員会があり、自己点検・評価に対するフィードバックを学外有識者から得ることで、質保証を高めることができる体制を整備している。

[エビデンス集（資料編）]

【2-1-01】2024 年度（令和 6 年度）開志専門職大学 組織図

【2-1-02】開志専門職大学 将来計画機構規程

【2-1-03】開志専門職大学 内部質保証機構規程

【2-1-04】開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程

【2-1-a】2024 年度第 1 回総務会全資料(pp. 39-42)

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価

①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析

(1) 2-2 の自己判定

「基準項目 2-2 を満たしている。」

(2) 2-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有

- ・本学では、2020 年の開学以来、内部質保証機構のもとに設置された自己点検・評価委員会が中心となり、毎年度、全学的に自己点検・評価を自主的・自律的に実施している。

具体的には、使命・目的、内部質保証、学生、教育課程、経営・管理と財務など、大学運営の各領域において、エビデンスに基づいた評価を行っており、その成果を「自己点検・評価報告書」として毎年度取りまとめている。

この「自己点検・評価報告書」は、全学で共有するとともに、自己点検・評価のプロセスや結果を踏まえた改善点についても、各部署と連携しながら、PDCA サイクルを実質的に機能させている。

さらに、「自己点検・評価報告書」は、大学ホームページでも公開しており、学内外問わず透明性を確保している。【2-2-01】

- ・2024 年度に、事業創造学部と情報学部の 2 学部が分野別認証評価の代替措置として外部有識者による第三者検証を受審し、より客観的な視点での評価も行った。当該学部の「自己点検評価 第三者検証報告書」も作成し、学内での共有とともに大学ホームページにも公開している。【2-2-01】

これらを通じて、内部質保証活動の実質化と継続的な改善を推進している。

②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析

- ・開学以来、内部質保証に必要な IR 活動については、教務委員会や学生委員会、FD・SD 委員会等の各委員会が、学生満足度、授業評価、卒業生、進路先、臨地実務実習先、入学者などについて調査を行い、得られた情報を教授会で報告し、教育・研究環境の改善に活用している。【2-2-a、2-2-b】
- ・令和 4（2022）年度より、事務局総務部に研究推進・IR 課を設置し、外部認証評価、自己点検評価、将来計画策定に関する情報の収集並びに提供を行う IR 活動を行っている。【2-2-c、2-2-02】
- ・収集された各種調査結果を基に毎年自己点検評価を行い、研究推進・IR 課が構成委員又事務所掌を務める自己点検・評価委員会で自己点検・評価報告書を作成公開している。【2-2-03～2-2-07】

例えば、専門職大学として実務家教員の研究力向上も必要であり、当課では、各学部、各個人の研究状況を確認しつつ、科研費、外部資金の調達に関わる情報を提供することにより、研究力向上に資することに努めている。

[エビデンス集（資料編）]

【2-2-01】 自己点検評価・第三者機関大学評価 <https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>

【2-2-02】 学校法人新潟総合学院事務組織規程

【2-2-03】 2020 年度自己点検・評価報告書

【2-2-04】 2021 年度自己点検・評価報告書

【2-2-05】 2022 年度自己点検・評価報告書

【2-2-06】 2023 年度自己点検・評価報告書

【2-2-07】 開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程

【2-2-a】 授業アンケート改定案

【2-2-b】 図書館利用者アンケート

【2-2-c】 2022 年度第 19 回総務会資料

2-3. 内部質保証の機能性

- ①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用
- ②学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用
- ③内部質保証のための学部、学科、研究科などと大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

(1) 2-3 の自己判定

「基準項目 2-3 を満たしている。」

(2) 2-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

カリキュラムに関わる学部教員の定期的な意見交換と合わせて、外部委員参加の教育課程連携協議会における外部委員のカリキュラム改善提案などをベースに、学部新カリキュラム変更を行っている。

【事業創造学部】

- ①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用
 - ・毎年1月に学生満足度アンケートを全学生向けに実施。学生支援、学修生活、学修環境等の内容にて回答を求めており学生委員会から関係部署への連携を実施し、学生の意見要望を反映し。アンケートのフィードバックとしては学生委員会で取りまとめ、学生に伝えている。学生要望のなかで実現可能性の高い要望に関しては、学生委員会、学務課との協議のうえ、導入へ向けて検討がなされている。また、3月教授会においてアンケート結果を教員へフィードバックし、学生の学修生活に関する状況を全教員で共有し、個々の授業への反映を行っている。具体的には、課題提出時期の重複による学生負担を軽減するために教員間にて課題提出期間の柔軟な対応の実施を共有している。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-c, 2-3-d, 2-3-e】
 - ・学生と教員との定期的な対話の機会として学生フォロー面談を実施している。1年次は入学して間もなく、2年次以降はゴールデンウィーク前に実施、第一回以降は学期ごと1回実施している。1人の教員が複数の学生を1年間受け持つことで学生の状況を深く知ることができる。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-d, 2-3-e, 2-3-f】

【情報学部】

- ①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用
 - ・毎年1月に学生満足度アンケートを全学生向けに実施。学生支援、学修生活、学修環境等の内容にて回答を求めており学生委員会から関係部署への連携を実施し、学生の意見要望を反映。アンケートのフィードバックとしては学生委員会で取りまとめ、学生に伝えている。学生要望のなかで実現可能性の高い要望に関しては、学生委員会、学務課との協議のうえ、導入へ向けて検討がなされている。また、3月教授会においてアンケート結果を教員へフィードバックし、学生の学修生活に関する状況を全教員で共有し、個々の授業への反映を行っている。具体的には、課題提出時期の重複による学生負担を軽減するために教員間にて課題提出期間の柔軟な対応の実施を共有している。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-d, 2-3-e, 2-3-f】

- ・学生と教員との定期的な対話の機会として学生フォロー面談を実施している。1年次は入学して間もなく、2年次以降はゴールデンウィーク前に第1回の面談を実施し、第1回以降は学期ごと1回実施している。1人の教員が複数の学生を1年間受け持つことで学生の状況を深く知ることができる。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-d, 2-3-e, 2-3-f】

【アニメ・マンガ学部】

①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用

- ・学生面談は、1年次は専任教員ごとに、2年次以降は分野単位で定期的実施している。面談内容は学生カルテに記録・共有されており、教職員間で学生の状況を把握しやすくすることで、個別支援を迅速に行える体制を整えている。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-d, 2-3-e, 2-3-g】
- ・年度末にアニメ・マンガ学部の全学生を対象に学生満足度調査を実施している。調査では、学生支援、学修生活、学修環境等に関する設問に加え、自由記述欄においても多くの意見が寄せられており、学生の実情や要望を把握するための重要な資料となっている。結果は学生委員会が取りまとめ、関係部署と連携して改善の可能性を検討し、教授会を通じて全教員に共有される。これにより、調査結果を授業運営や学生支援に適切に反映させる体制を構築している。調査結果に基づく対応として具体的には、課題提出時期の重複による学生負荷を軽減するために教員間にて課題提出期間の柔軟な対応の実施を共有している。【2-3-a, 2-3-b, 2-3-d, 2-3-e, 2-3-f】

②学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用

各学部に教育課程連携協議会を設置し、適切に運用している【2-3-h】。教育課程連携協議会は、次に掲げる事項について審議し、学長に意見を述べるものとしている。

- (1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設その他の教育課程の編成に関する基本的な事項
 - (2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項
- なお、教育課程連携協議会は、次に掲げる者をもって構成している。
- 1) 学長が指名する教員その他の職員
 - 2) 課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有する者
 - 3) 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他地域の関係者
 - 4) 臨地実務実習その他の授業科目の開設又は授業の実施において協力する事業者
 - 5) 教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認める者

また、構成員の任期は2年とし、再任を妨げないものとしている。

開催回数は、年度の間と年度末の年2回の開催を基本とし、教育課程連携協議会の代表者たる委員長が必要と認める場合は臨時の開催も可能としている。

教育課程連携協議会の審議により、産業界等の現に必要なとされている知識・技術が教育課程に反映されていることを検証・評価する。各学部で教育課程連携協議会において新課程の教育内容について委員から意見を求め、新カリキュラム体系や設置科目に

ついて承認を得た。【2-3-i、2-3-j】

- ・毎年前期1回、後期1回教育課程連携協議会を開催し、事業推進や学生募集状況報告、在校生状況報告、臨地実務実習報告、就職状況報告を行いながらご意見・要望を吸い上げ大学運営の改善に努めている。【2-3-k】

例えば、実習先企業との連携、コミュニケーションが重要な臨地実務実習については、その実効性を高めるために、実習先企業による実習振り返り結果を元に、新カリキュラムにおける臨地実務実習関連科目の配置、運営方法などを改善していった。

③内部質保証のための学部、学科、研究科などと大学全体の PDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性

- ・三つのポリシーを起点とした内部質保証については、将来計画機構、内部質保証機構、自己点検・評価委員会を中心として、各学部・学科ごとに毎年度、学修成果や教育活動の点検・評価を実施して、「自己点検・評価報告書」としてまとめている。自己点検・評価の結果をもとに、将来計画機構が学部へ対応計画の策定を指示し、学部は教育の改善・向上のための計画を策定・実施することとしている。また、内部質保証機構がこの運用状況を点検・評価し、PDCA サイクルに基づいて継続的な改善を推進している。【2-3-1、2-3-m、2-3-n】
- ・自己点検・評価、分野別認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえ、カリキュラムや授業方法の改善、新規科目の導入、既存科目の内容見直し、学修支援体制の充実など、具体的な教育研究の質向上策につなげている。なお、カリキュラムや授業実施方針の見直しにあたっては、「教育課程連携協議会」の意見も反映している。【2-3-h】
- ・具体的な事例として、2024 年度には事業創造学部と情報学部において、「新カリキュラム」への変更を実施した。さらに、2025 年度にはアニメ・マンガ学部においても「新カリキュラム」へと変更した。【2-3-o】
- ・自己点検・評価や認証評価の結果や設置に係る設置計画履行状況報告書等は、大学ホームページで公表している。【2-3-01】、【2-3-p】

[エビデンス集 (資料編)]

【2-3-01】 自己点検評価・第三者機関大学評 <https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>

【2-3-a】 2024 年度第 2 回学生委員会議事録

【2-3-b】 2024 年度第 3 回学生委員会議事録

【2-3-c】 学生アンケート集計結果_事業創造学部

【2-3-d】 学生アンケートのフィードバック

【2-3-e】 学生フォロー面談

【2-3-f】 学生アンケート集計結果_情報学部

【2-3-g】 学生アンケート集計結果_アニメ・マンガ学部

【2-3-h】 開志専門職大学 教育課程連携協議会規程

【2-3-i】 2024 年度第 1 回教育課程連携協議会議事録

【2-3-j】 2024 年度第 2 回教育課程連携協議会議事録

開志専門職大学

- 【2-3-k】 アニメ・マンガ学部教育課程連携協議会議事録（2023年度・2024年度）
- 【2-3-l】 開志専門職大学 将来計画機構規程
- 【2-3-m】 開志専門職大学 内部質保証機構規程
- 【2-3-n】 開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程
- 【2-3-o】 KAISHI Campus Guide 2024(p.76、pp.98-102、pp.104-108)
- 【2-3-p】 学部等の設置関係 <https://kaishi-pu.ac.jp/establish/>

基準 3. 学生

3-1. 学生の受入れ

- ①アドミッション・ポリシーの策定と周知
- ②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証
- ③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

(1) 3-1 の自己判定

「基準項目 3-1 を満たしている。」

(2) 3-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①アドミッション・ポリシーの策定と周知

入試・広報委員会において、アドミッション・ポリシーを定め、アドミッション・ポリシーは学位課程ごとに設定され、募集要項および本学ホームページにおいて十分公表しており、オープンキャンパスにおいても周知をしている。【3-1-01、3-1-02、3-1-03】受け入れ方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されており、募集要項に記載され周知できている。

【3-1-01】

オープンキャンパスや高校教員向け説明会にて、アドミッション・ポリシーの趣旨と選抜方法の説明を実施している。専門職大学と大学との違い、特性、実務家教員を交えた実践的な教育プログラムによる専門職業人人材の育成について、説明・紹介することにより、本学のアドミッション・ポリシーの理解、周知を図っている。

②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証

A. 入学者選抜はアドミッション・ポリシーに従い、入試・広報委員会を中心とし、学長、副学長、各学部の学部長を含めて、検証を行っている。【3-1-04】

B. 入学者選抜実施日は実施本部長に副学長を配置し、入試・広報委員会が中心となり選抜試験を実施する。職員は主に、学生の誘導や選抜実施の補助を行い、教員は、試験の監督および面接員として学生との面接試験を行う。その後、入学者選抜について、入試・広報委員会にて議論し、見直しを図る。【3-1-a~3-1-d】C. 選抜制度は、学力のみならず、活動内容、主体性、協働性など多面的に評価を行う選抜区分を設けており、アドミッション・ポリシーとの整合性を確保している。【3-1-e】

③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

今年度の入学者数は、定員充足率 85%で募集定員を超過することなく、かつ教育の質を維持できる範囲で確保できている。定員充足が未達であるが、各学部の定員 80 名に対し、事業創造学部は 73 名、情報学部は 64 名、アニメ・マンガ学部は 67 名で、事業創造学部、アニメ・マンガ学部においては、開学以来最高の入学実績となった。【3-1-f】

入試広報委員会、入試広報部を中心に、定員充足に向けた措置、各入試内容・方式の検討、高校教員への周知の機会の設定、積極的な模擬授業の実施、大学への案内機会を活用することで、本学の教育システムの特性の周知、さらに新聞、出版などメディアを活用することで社会的認知を高めることに努めている。

[エビデンス集 (資料編)]

【3-1-01】 大学 HP 「学生募集要項」 <https://kaishi-pu.ac.jp/admissions/examination/>

【3-1-02】 大学 HP 「アドミッション・ポリシー」 <https://kaishi-pu.ac.jp/ao/>

【3-1-03】 2025 年度入試説明資料

【3-1-04】 開志専門職大学 入試・広報委員会規程

【3-1-a】 2024 年度第 9 回入試・広報委員会議事録

【3-1-b】 2024 年度第 10 回入試・広報委員会議事録

【3-1-c】 2024 年度第 11 回入試・広報委員会議事録

【3-1-d】 2024 年度第 12 回入試・広報委員会議事録

【3-1-e】 2025 年度_実施要項

【3-1-f】 入試結果 DATA

3-2. 学修支援

①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備

②TA(Teaching Assistant)の活用をはじめとする学修支援の充実

(1) 3-2 の自己判定

「基準項目 3-2 を満たしている。」

(2) 3-2 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

【事業創造学部】

①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備

- ・ 教員による学生フォロー面談を通して学生の学修を支援している。状況により職員と連携し出席不良、成績不良学生への対応を行っている。さらに、保護者のみ、あるいは学生・保護者同席による教職員との保護者面談を実施し、学修支援を促す取り組みを実施している。学生委員会規程 (目的) により、学生生活について適切な指導・助言及び環境整備を行い、その安定化と充実に寄与することを方針としている。教職協働による学生支援体制は、学生委員会、専門部会としての各学部の学生部会が組織され、さらに学部単位で教授会、意見交換会の実施体制が整備されている。各会においては、学生の生活全般、健康状態、授業出席状況、成績状況、就職活動状況についての報告・共有がなされており、学生対応に関する今後の対応を決定している。【3-2-a、3-2-b、3-2-c】

【情報学部】

①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備

- ・ 毎週出欠状況を確認し、欠席が続く学生に対して教員と職員で連携し、面談を行なっている。それでも改善が見られない場合保護者同席の上、面談を実施している。学生委員会規程 (目的) により、学生生活について適切な指導・助言及び環境整備を行い、その安定化と充実に寄与することを方針としている。教職協働による学生支援体制は、学生委員会、専門部会としての各学部の学生部会が組織され、さらに学部単位で教授会、意見交換会の実施体制が整備されている。各会においては、学生の生活全般、健康状態、授業出席状況、成績状況、就職活動状況についての報告・共有がなされており、学生対

応に関する今後の対応を決定している。【3-2-a、3-2-d】

【アニメ・マンガ学部】

①教員と職員の協働をはじめとする学修支援体制の整備

- ・出欠情報や課題提出状況の共有を通じて、学業不振や学修困難の兆候が見られる学生に対し、早期に情報を集約し、教職員と連携して個別フォローを実施できる体制を構築している。学生委員会規程（目的）により、学生生活について適切な指導・助言及び環境整備を行い、その安定化と充実に寄与することを方針としている。教職協働による学生支援体制は、学生委員会、専門部会としての各学部の学生部会が組織され、さらに学部単位で教授会、意見交換会の実施体制が整備されている。各会においては、学生の生活全般、健康状態、授業出席状況、成績状況、就職活動状況についての報告・共有がなされており、学生対応に関する今後の対応を決定している。【3-2-a、3-2-e】
- ・教員主導による定期的な学生面談では、学習上の不安や困難を直接聴取し、その内容を学生カルテに記録、必要に応じて学生委員会や学務課と情報共有することで、教職協働による支援体制を運用している。【3-2-a、3-2-e】
- ・合理的配慮を要する学生への支援においては、医務室・カウンセラー・職員・教員が協働し、配慮内容の調整や学修環境の整備を行っている。【3-2-a、3-2-e】

② TA (Teaching Assistant) の活用をはじめとする学修支援の充実

- 本学は、開志専門職大学の建学の精神である、①自学②挑戦③創造④貢献に基づき、学生委員会規程（目的）により、学生生活について適切な指導・助言及び環境整備を行い、その安定化と充実に寄与することを方針としている。具体的には、学生の生活指導及び福利厚生に関すること、学生の休学、退学、復学等に関すること、学生の課外活動に関すること、奨学生及び授業料減免に関すること、学生の賞罰に関すること、保護者との情報交流に関すること、その他学生生活に関すること、が挙げられる。【3-2-01】これらについての具体的対策を明記した「学生相談・カウンセリング」「合理的配慮」【3-2-f】「修学アドバイス・フォロー体制」【3-2-g】、「オフィスアワー」【3-2-h】、「学習支援(SA制度)」【3-2-i】については、Campus Guide を通じて学生および教職員に説明している。
- ・SAは規程に従い、十分な研修を実施し授業運営の補助を行っている。【3-2-02】
 - ・オフィスアワーは、全学的に実施している。【3-2-03】
 - ・障がい学生への合理的配慮を実施している【3-2-04】
 - ・中途退学、休学、留年については、学生相談・カウンセリング体制を確立させ、学生が快適な学生生活を送ることができるような対応を行っている。【3-2-j】

【エビデンス集（資料編）】

【3-2-01】 開志専門職大学 学生委員会規程

【3-2-02】 SA 制度運用規程

【3-2-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.34)

【3-2-04】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.12、pp.159-161)

【3-2-a】 学生フォロー面談

- 【3-2-b】 総務会資料_2024 年度保護者会実施報告
- 【3-2-c】 事業創造学部_学生状況報告
- 【3-2-d】 情報学部_学生状況報告
- 【3-2-e】 アニメ・マンガ学部_学生状況報告
- 【3-2-f】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.12-13)
- 【3-2-g】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.14-15)
- 【3-2-h】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.34-35)
- 【3-2-i】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.110-111)
- 【3-2-j】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.12)

3-3. キャリア支援

- ①教育課程におけるキャリア教育の実施
- ②キャリア支援体制の整備

(1) 3-3 の自己判定

「基準項目 3-3 を満たしている。」

(2) 3-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①教育課程におけるキャリア教育の実施

【事業創造学部】

1年次にキャリアデザインⅠ（授業概要：キャリア形成において必要となる基礎的・汎用的能力を理解する）、2年次にキャリアデザインⅡ（授業概要：他者と協調・協働して行動できる態度や、他者に方向性を示し目標を達成するために動員できる能力を養成する）、3年次にキャリアデザインⅢ（授業概要：将来への目的意識を明確に持てるよう職業観を涵養し、職業に関する知識を身に付け、自己の個性を理解したうえで主体的に進路を選択できる能力及び卒業後も自律・自立して学習できる態度を育成する）を配置し、各科目とも必修科目としている。また授業方法はいずれも、グループワークを中心とした演習科目である。一連の科目配置については、Campus Guide 2024 【3-3-01、48～49 ページ、98～99 ページ】にカリキュラム体系図としてまとめられており、毎年年次開始のオリエンテーションで学生に説明している。

【情報学部】

1年次にキャリアデザインⅠ、2年次にキャリアデザインⅡ、3年次にキャリアデザインⅢを配置し、各科目とも必修科目としている。また授業方法はいずれも、グループワークを中心とした演習科目である。一連の科目配置については、Campus Guide 2024 【3-3-02、58～59 ページ、104～105 ページ】にカリキュラム体系図としてもまとめられており、入学時のオリエンテーションなどで学生に周知している。

【アニメ・マンガ学部】

1年次にキャリアデザインⅠ、2年次にキャリアデザインⅡ、3年次にキャリアデザイン

Ⅲを配置し、各科目とも必修科目としている。また授業方法はいずれも、グループワークを中心とした演習科目である。一連の科目配置については、Campus Guide 2024【3-3-03、64～65 ページ、110～111 ページ】にカリキュラム体系図としてもまとめられており、入学時のオリエンテーションなどで学生に周知している。

②キャリア支援体制の整備

【事業創造学部】

- ・キャリアセンター規定【3-3-04】に則りキャリアセンターを設置し、Campus Guide2024【3-3-a】に記載のとおり、適切な進路・就職支援体制を整備している。
- ・卒業3年後までの卒業生に対する就職支援サポートは大学HP【3-3-b】に記載のとおり学生に周知し体制を整えている。
- ・事業創造学部のカリキュラムを考慮した支援を企画・運営し、毎月の定例会議、教授会において情報を共有、次月に向けての課題を確認している。ゼミ担当教員のサポート依頼等の対策もふまえた支援を実施している。【3-3-c】
- ・臨地実務実習、キャリアデザイン等の授業科目との連携を行なっている。実習先への就職率16.7%と結果にも繋がっている。【3-3-d】

【情報学部】

- ・キャリアセンター規定【3-3-04】に則りキャリアセンターを設置し、Campus Guide2024【3-3-a】に記載のとおり、適切な進路・就職支援体制を整備している。
- ・卒業3年後までの卒業生に対する就職支援サポートは大学HP【3-3-b】に記載のとおり学生に周知し体制を整えている。
- ・情報学部のカリキュラムを考慮した支援を企画・運営し、毎月の定例会議、教授会において情報を共有、次月に向けての課題を確認し、担任教員のサポート依頼等の対策もふまえた支援を実施している。【3-3-e】
- ・2024年度、「大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」にて優秀賞を受賞した臨地実務実習においても実習担当教員が進路相談にのり、キャリアセンターと連携する体制を整えている。【3-3-f】
- ・キャリア形成支援につながる臨地実務実習、またキャリアデザイン等との連携を行なっている。実習先への就職率21.1%と結果にも繋がっている。【3-3-d】

【アニメ・マンガ学部】

- ・キャリアセンター規定【3-3-04】に則りキャリアセンターを設置し、Campus Guide2024【3-3-a】に記載のとおり、適切な進路・就職支援体制を整備している。
- ・卒業3年後までの卒業生に対する就職支援サポートは大学HP【3-3-b】に記載のとおり学生に周知し体制を整えている。
- ・アニメ・マンガ学部のカリキュラムを考慮した支援を企画・運営し、毎月の定例会議、教授会において情報を共有、次月に向けての課題を確認している。総合政策研究実習の主査担当教員による学生サポートを中心として、キャリアセンター教職員を含めた支援を実施している【3-3-g】。

- ・臨地実務実習、キャリアデザイン等の授業科目との連携を行なっている【3-3-h】。
- ・臨地実務実習先への就職は2024年度卒で4名（14.29%）と、一定の成果が出ていると考えられる【3-3-i】。
- ・学生の希望進路はアニメーション、マンガ、キャラクターデザイン、ゲーム、玩具等の専門系企業への就職だけでなく、一般企業、フリーランス・起業等、多岐にわたる【3-3-j】。そのため、在学中からコンペティションへの応募や投稿、作品の持ち込み等を行い、クリエイターとしての実績を積むことを推奨している。自治体や各種団体・企業とのコラボレーションによる創作イベント、各種コンペティションへの作品募集、出版社編集部を招いた作品講評機会の提供等を実施し、希望する進路に向けた実績作りができる環境を提供している【3-3-k、3-3-l pp23-25、3-3-m】。

[エビデンス集（資料編）]

- 【3-3-01】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.48-49、98-99)
- 【3-3-02】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)
- 【3-3-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.64-65、110-111)
- 【3-3-04】 開志専門職大学 キャリアセンター運営規程
- 【3-3-a】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.112-114)
- 【3-3-b】 大学HP「卒業生の皆さんへ」<https://kaishi-pu.ac.jp/graduate/>
- 【3-3-c】 2024年度事業創造学部キャリアセンター教授会資料
- 【3-3-d】 臨地実務実習先企業就職割合
- 【3-3-e】 2024年度情報学部キャリアセンター教授会資料
- 【3-3-f】 受賞大学等取組概要（令和5年度）
- 【3-3-g】 2024年度アニメ・マンガ学部キャリアセンター教授会資料
- 【3-3-h】 キャリアデザイン3_スケジュール
- 【3-3-i】 2025年卒_3_学部進路
- 【3-3-j】 2026年卒_卒業後の進路に関するアンケート（2024年7月・抜粋）
- 【3-3-k】 キャラクターデザイン分野_学生受賞コンテスト一覧
- 【3-3-l】 2024年度事業報告書（pp.23-25）
- 【3-3-m】 出張マンガ編集部

3-4. 学生サービス

①学生生活の安定のための支援

(1) 3-4の自己判定

「基準項目3-4を満たしている。」

(2) 3-4の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①学生生活の安定のための支援

【事業創造学部】

- ・学生サービス、厚生補導のために、学務学生係、健康相談担当（職員・看護師・カウ

セラー)、学生委員会が組織されている。これら組織が毎年春に実施の健康診断は学校保健安全法に基づき全学年、全学生を対象に実施している。また、校医が月に一度来学し、健康相談を実施している。【3-4-01】

- 学生相談窓口では、学務課職員（健康相談担当）・看護師・カウンセラー・校医が学生相談やカウンセリングを行っている。障がい学生支援では、外部企業と連携、医療機関との連携も行っている。【3-4-01】
- 奨学金などの経済的支援に関する案内は、本学独自の給付奨学金・進級時奨学金・資格奨学金や日本学生支援機構奨学金や修学支援制度の手続きも学生課で適宜行っている。【3-4-01】
- 学生課（健康相談担当）とカウンセラーとで、悩みを抱える学生をグループ活動を通し、人間関係構築をサポートしている。（セルフプロデュースラボ）【3-4-01、3-4-a】

【情報学部】

- 学生サービス、厚生補導のために、学務学生係、健康相談担当（職員・看護師・カウンセラー）、学生委員会が組織されている。これら組織が毎年春に実施の健康診断は学校保健安全法に基づき全学年、全学生を対象に実施している。また、校医が月に一度来学し、健康相談を実施している。【3-4-01】
- 学生相談窓口では、学務課職員（健康相談担当）・看護師・カウンセラー・校医が学生相談やカウンセリングを行っている。障がい学生支援では、外部企業と連携、医療機関との連携も行っている。【3-4-01】
- 奨学金などの経済的支援に関する案内は、本学独自の給付奨学金・進級時奨学金・資格奨学金や日本学生支援機構奨学金や修学支援制度の手続きも学生課で適宜行っている。【3-4-01】
- 学生課（健康相談担当）とカウンセラーとで、悩みを抱える学生をグループ活動を通し、人間関係構築をサポートしている。（セルフプロデュースラボ）【3-4-01、3-4-a】

【アニメ・マンガ学部】

- 学生サービス、厚生補導のために、学務学生係、健康相談担当（職員・看護師・カウンセラー）、学生委員会が組織されている。これら組織が学生の心身の健康保持を図るため、学校保健安全法に基づいて毎年春に全学生を対象とした健康診断を実施している。これに加え、月1回の校医による相談の機会を設け、継続的な健康支援体制を整えている。【3-4-01】
- 学生支援体制としては、健康相談を担う学務課職員をはじめ、看護師、カウンセラー、校医が連携して対応にあたり、心身の不調に関する相談や必要に応じたカウンセリングを提供している。障がいのある学生に対しても、医療機関や外部支援機関との協働を通じて、個別のニーズに応じた支援を実施している。【3-4-01】
- 経済的支援については、本学独自の給付奨学金（進級時支給や資格取得支援を含む）を設けているほか、日本学生支援機構の各種奨学金制度や高等教育の修学支援制度に関する情報提供および申請手続きも、学生課が随時対応している。【3-4-01】
- 学生課（健康相談担当）とカウンセラーとで、悩みを抱える学生をグループ活動を通し、

人間関係構築をサポートしている。(セルフプロデュースラボ)【3-4-01、3-4-a】”

[エビデンス集 (資料編)]

【3-4-01】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.8-12)

【3-4-a】 セルフプロデュースラボ実施案内

3-5. 学修環境の整備

①校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営

②図書館の有効活用

③施設・設備の安全性・利便性

(1) 3-5 の自己判定

「基準項目 3-5 を満たしている。」

(2) 3-5 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

①校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営

- ・本学は、紫竹山キャンパス、米山キャンパス、古町キャンパスの3キャンパスを設置している。施設の管理については大学事務局総務担当にて行っている。【3-5-01:2103. 開志専門職大学 事務組織規程_P.3】
- ・3キャンパスの校地合計面積は 12,863 m²、校舎合計面積は 17,388 m²といずれも大学設置基準に規定された基準面積を上回る校舎を保有しており、法令を遵守した上で有効活用している。
- ・事業創造学部は紫竹山キャンパスに講義室 11 室、演習室 4 室、学生自習室 2 室、図書館等の設備を整え、収容定員 320 名が修学するのに十分な環境を整備している。【3-5-02: Campus Guide 2024_P.126-P.129】
- ・情報学部は米山キャンパスに講義室 6 室、演習室 7 室、学生自習室 2 室、実験・実習室 5 室、情報処理実習室 1 室、図書館等の設備を整え、紫竹山キャンパスにサイバーセキュリティ用実験実習室があり、収容定員 320 名が修学するのに十分な環境を整備している【3-5-02: Campus Guide 2024_P.132-P.136】
- ・アニメ・マンガ学部は古町キャンパスに講義室 4 室 (シアタールームおよびプレゼンテーションルームを含む)、演習室 1 室、実習室 1 室、実験・実習室 6 室、学生自習室 1 室、学生控室 1 室、情報処理実習室 1 室、図書貸出・閲覧コーナー等の設備を整え、収容定員 320 名が修学するのに十分な環境を整備している。【3-5-02: Campus Guide 2024_P.137】
- ・学生が利用可能なスペースとしては、紫竹山キャンパスには、学生自習室 2 室 (S306 室: 6 席、S314 室: 12 席)、グループ討議が可能な演習室を 4 室 (S603 室: 38 席、S604 室: 33 席、S605 室: 27 席、S606 室: 30 席) を設けている。【3-5-02: Campus Guide 2024_P.126-P.129】
- ・図書館棟の 2 階にも図書資料の閲覧および自主学習ができる環境 (46 席) を整備している。さらに、学生ラウンジ (59 席) やカフェテリア (124 席) は昼食や休憩、談話

の他にグループ討議や自主学習が可能な十分なスペースとなっており、学生が自主学習等に活用している。【3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 126-P. 129】

- 米山キャンパスには、学生自習室 2 室 (Y301 室、Y405 室)、グループ討議が可能な演習室 5 室 (Y303 室、Y401 室～Y404 室) を設けている。
また、自習可能な環境として米山キャンパス図書館にも机と椅子 (63 席) を整備している。さらに、1 階にある学生ロビーは昼食や休憩、談話の他にグループ討議や自主学習が可能な十分なスペースとなっており、学生が自主学習等に活用している。(3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 132-P. 136)
- 古町キャンパスには、学生自習室 1 室 (F118 室)、学生控室 1 室 (F206 室)、グループ討議が可能な実験・実習室 6 室 (F129～131 室、F201 室～F203 室) を設けている。
また、自習可能な環境として、11 階図書貸出・閲覧コーナーにも机と椅子 (43 席) を整備している。さらに、10 階にあるロビーおよび 11 階図書貸出・閲覧コーナーは昼食や休憩、談話の他にグループ討議や自主学習が可能な十分なスペースとなっており、学生が自主学習等に活用している。(3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 137)
- ICT 環境については、事業創造学部のある紫竹山キャンパスでは、館内は全フロアどこでも学生が自由に使える Wi-Fi 環境が用意されており大学内からインターネット接続ができる環境が整備されている。ソフトウェアについては、学生には「Microsoft365」のアカウントを付与しており、大学のポータルサイトや掲示板へのアクセスが可能となり、大学用メール、Teams チャットも併用して大学からの連絡、授業や成績など学生生活を送るうえで必要な情報を受け取ることが出来るようになっている。また、紫竹山キャンパス内の学習支援センター兼キャリアセンター (1 階) および学生ロビー (4 階)、学生ラウンジ (7 階)、図書館棟に学生用複合機を設置して印刷やスキャン、コピー等が出来るようになっている。(3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 13, P. 122-P. 124, P. 130)
- 情報学部のある米山キャンパスでは、館内は全フロアどこでも学生が自由に使える Wi-Fi 環境が用意されており大学内からインターネット接続ができる環境が整備されている。ソフトウェアについては、学生には「Microsoft365」のアカウントを付与しており、大学のポータルサイトや掲示板へのアクセスが可能となり、大学用メール、Teams チャットも併用して大学からの連絡、授業や成績など学生生活を送るうえで必要な情報を受け取ることが出来るようになっている。また、米山キャンパス内の 2 階学生ロビーに学生用複合機を設置して印刷やスキャン、コピー等が出来るようになっている。(3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 13, P. 122-P. 124, P. 130)
- アニメ・マンガ学部のある古町キャンパスでは、館内は全フロアどこでも学生が自由に使える Wi-Fi 環境が用意されており大学内からインターネット接続ができる環境が整備されている。ソフトウェアについては、学生には「Microsoft365」のアカウントを付与しており、大学のポータルサイトや掲示板へのアクセスが可能となり、大学用メール、Teams チャットも併用して大学からの連絡、授業や成績など学生生活を送るうえで必要な情報を受け取ることが出来るようになっている。また、古町キャンパス内の 10 階および 11 階学生控室内に学生用複合機を設置して印刷やスキャン、コピー等が出来るようになっている。さらに、11 階学生控室には視聴覚ソフトを視聴可能な DVD 再生機を 5 台設置している。【3-5-02 : Campus Guide 2024_P. 13, P. 122-P. 124, P. 138】

- ・臨地実務実習やその他実習においても各キャンパスにて実習室、実験・実習室、演習室を中心に臨地実務実習についてはキャンパス内から参加するオンラインでの実習を中心に、その他実習において実習の内容を加味した上で使用がなされている。【3-5-02 : Campus Guide 2024_P.126-P.137】

②図書館の有効活用

- ・図書館は、紫竹山キャンパス、米山キャンパス、古町キャンパスの3キャンパスにそれぞれ配置し学部を超えて全学生が全ての図書館を使用することが出来る【3-5-03】。紫竹山キャンパス図書館は図書6,360冊、学術雑誌29種(電子ジャーナル8種を含む)、データベース8種(3キャンパス共有)、新聞6紙を配架している。閲覧席数は109席、コピー機1台、OPAC蔵書検索システム2台、自動貸出機1台を設置している。また、米山キャンパス図書館は図書4,828冊、学術雑誌31種(電子ジャーナル14種を含む)、データベース8種(3キャンパス共有)、新聞5紙、閲覧席数63席、コピー機1台、OPAC蔵書検索システム2台、自動貸出機1台、古町キャンパス図書コーナーは古町ルフルキャンパスに配置し、図書4,114冊、学術雑誌41種(電子ジャーナル5種を含む)、データベース8種(3キャンパス共有)、新聞5紙、閲覧席数43席、コピー機1台、OPAC蔵書検索システム1台、自動貸出機1台を設置している【3-5-04】。図書館の開館日時は原則月曜日～金曜日、9時～20時、図書貸出冊数は10冊、貸出期間は14日間(教職員は30日間)としている【3-5-03】。
- ・古町ルフルキャンパスから徒歩7分の別棟にアニメ・マンガ図書館を設置しており、開館日時は原則月曜日～金曜日、12時20分～20時、約30,000冊のコミックが所蔵している。【3-5-03, pp. 117-118】。
- ・図書館には図書館司書を配置し、新入生オリエンテーション(図書館利用説明会)、データベース利用ガイダンス、レファレンスサービス等を行っている。図書館の運営については、図書委員会を設置し【3-5-a】、以下の図書館利用推進の活動を行っている。
 - シラバス掲載参考図書の確保
 - 学生リクエストの年間を通しての募集
 - 教員推薦図書による読書指導
 - ブックガイドによる読書への導き
 - 各種資格試験対策参考図書の充実
 - 電子ブックの充実
 - 企業内実習関連資料コーナーの設置
 - 「学生支援と合理的配慮」の観点から、発達障害、精神障害、ストレスケア関連の図書(電子ブック含む)の充実を図っている
 - 8つのデータベース(論文検索や新聞掲載記事検索、企業情報検索)利用が可能
 - 基礎ゼミ内での蔵書検索システム OPAC およびデータベース日経テレコンの利用ガイダンスを実施
 - ILL(図書館間相互利用)サービスの実施
 - 「新潟総合学園・新潟総合学院機関リポジトリ」の運用を開始し、年報や所報、紀要を公開
 - 教員とマンガコース学生によりドキュメントマンガ「アニメ・マンガ図書館に行

こう」を制作。アニメ・マンガ図書館を紹介した内容となり、各図書館に設置しアニメ・マンガ図書館の利活用促進

- 図書館により親しみを持ってもらえるよう図書館キャラクターを本学学生より募集し、決定した。図書館キャラクターを活用した3Dモデリング作成イベントを開催

- ・図書館、学術情報サービスは十分に機能しており、2023年度の紫竹山キャンパス図書館利用者数は1,154名（うち学生851名）、貸出者数175名（うち学生148名）、貸出冊数360冊（うち学生295冊）、米山キャンパス図書館利用者数は1,283名（うち学生1,227名）、貸出者数264名（うち学生226名）、貸出冊数389冊（うち学生300冊）、古町ルフルキャンパス図書コーナー利用者数は貸出者数284名（うち学生213名）、貸出冊数533冊（うち学生410冊）【3-5-b】、2024年度の紫竹山キャンパス図書館利用者数は1,360名（うち学生1,021名）、貸出者数160名（うち学生106名）、貸出冊数297冊（うち学生193冊）、米山キャンパス図書館利用者数は936名（うち学生885名）、貸出者数221名（うち学生172名）、貸出冊数437冊（うち学生314冊）、古町ルフルキャンパス図書コーナー利用者数は貸出者数275名（うち学生251名）、貸出冊数482冊（うち学生445冊）、アニメ・マンガ図書館利用者数は来館者数111名（うち学生97名）と図書館の有効活用がされている【3-5-c】。

③施設・設備の安全性・利便性

本学は、紫竹山キャンパス、米山キャンパス、古町キャンパスの3キャンパスを設置している。各キャンパス構内は段差の解消、車椅子対応エレベーターの設置（複合ビル共用部含む）、バリアフリースイールの設置（複合ビル共用部含む）など、障がいのある学生等が安全・安心に利用できるよう十分な配慮をしている。また各キャンパスに医務室を備えており、学生の心身の健康に配慮している。安全性については、校舎は、紫竹山キャンパス、米山キャンパス、古町キャンパスの3キャンパスとも1981年6月1日から施行された新耐震基準を満たしている。【3-5-05】災害時に帰宅困難者が発生した場合のため、防災備蓄品を3キャンパスに配備している。また、構内受付にAEDを設置している。防犯については、紫竹山キャンパスおよび米山キャンパスでは1階フロア正面入り口に受付を配置して必要に応じて入館者の確認をしている。また、1階正面出入口及びロビー、建物外回りに監視カメラを設置して事務局でモニタリングができるように整備している。夜間の安全・防犯対策のために機械警備を設置して安全・防犯に配慮している。古町ルフルキャンパスでは10階フロアのロビーに受付を配置して必要に応じて入館者の確認をしている。また、10階出入口2カ所および11階出入口2カ所、10階フロア通路に2カ所、11階フロア通路に1カ所、監視カメラを設置して事務局でモニタリングができるように整備している。夜間の安全・防犯対策のために機械警備を設置して安全・防犯に配慮している。

[エビデンス集（資料編）]

【3-5-01】開志専門職大学 事務組織規程

【3-5-02】KAISHI Campus Guide 2024 (p.13, pp.122-124, 126-138)

開志専門職大学

- 【3-5-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.115-118)
- 【3-5-04】 図書館案内(新入生オリエンテーション資料)
- 【3-5-05】大学 HP「情報公開」内、「校舎等の耐震化率」<https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>
- 【3-5-a】 開志専門職大学 図書委員会規程
- 【3-5-b】 2023 年度図書館利用状況報告
- 【3-5-c】 2024 年度図書館利用状況報告

基準 4. 教育課程

4-1. 単位認定、卒業認定、修了認定

①ディプロマ・ポリシーの策定と周知

②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用

(1) 4-1 の自己判定

「基準項目 4-1 を満たしている。」

(2) 4-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①ディプロマ・ポリシーの策定と周知

【事業創造学部】

・ディプロマ・ポリシーは4項目から策定されており、学生には毎年学年初めのオリエンテーションで周知している（Campus Guide 2024 を利用、【4-1-01】）。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-1-02】。ディプロマ・ポリシーの策定に関しては、学部教授会で決定を行っている。【4-1-03】。

【情報学部】

・ディプロマ・ポリシーは4項目から策定されており、学生には入学時のオリエンテーションなどで周知している【4-1-04】。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-1-02】。

【アニメ・マンガ学部】

・ディプロマ・ポリシーは5項目から策定されており、学生には毎年学年初めのオリエンテーションで周知している【4-1-05】。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-1-02】。

②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用

・単位認定基準については、ディプロマ・ポリシーおよび学則第 35 条（成績）および開志専門職大学履修・試験・成績評価に関する細則第 8 条（成績評価）に規定され、それらは Campus Guide 2024 に明記され学生に周知されている【4-1-06】。また、単位認定（成績評価）をする教員に対しては、「シラバス執筆ガイド」にて成績評価の公正さと透明性の確保を周知しており、その方針に沿ってシラバスを作成している【4-1-a】。また、学期ごとの単位認定結果（特に、不合格判定）については、学生・教務部会内で共有し、その妥当性についてチェックしている。

・卒業認定基準については、ディプロマ・ポリシーおよび学則第 44 条（卒業）に規定され、Campus Guide 2024 に明記され学生に周知されている【4-1-07】。また、新カリキュラムにおいては、学年ごとに修得目標を定め、それをカリキュラム体系図内に明記している【4-1-08】。実際の卒業認定については、開志専門職大学学則に則り【4-1-03】、教授会において適切に実施されている【4-1-b】【4-1-c】【4-1-d】。その後、学長が教授会で決定した卒業生の卒業を認定している【4-1-e】。

・入学前の実務経験を通じた実践的能力に関する単位認定基準については、学則第 32 条 3 に規定されている【4-1-09】。2024 年度において該当ケースは発生していない。

【エビデンス集（資料編）】

【4-1-01】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 25、 p. 75)

【4-1-02】 大学 HP 「ディプロマ・ポリシー」

<https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/openinfo/diploma-policy.pdf?ver=2>

【4-1-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.147)

【4-1-04】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 26、 p. 65)

【4-1-05】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 27)

【4-1-06】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 46、 95、 144、 162)

【4-1-07】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 25、 75、 144)

【4-1-08】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 98-99)

【4-1-09】 KAISHI Campus Guide 2024 (p. 143)

【4-1-a】 2024 年度新課程用シラバス執筆ガイド

【4-1-b】 2024 年度第 11 回事業創造学部教授会議事録

【4-1-c】 2024 年度第 11 回情報学部教授会議事録

【4-1-d】 2024 年度アニメ・マンガ学部臨時教授会資料 卒業判定会議資料

【4-1-e】 第 19 回総務会議事録

4-2. 教育課程及び教授方法

①カリキュラム・ポリシーの策定と周知

②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

④教養教育の実施

⑤教授方法の工夫と効果的な実施

(1) 4-2 の自己判定

「基準項目 4-2 を満たしている。」

(2) 4-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①カリキュラム・ポリシーの策定と周知

【事業創造学部】

・カリキュラム・ポリシーは 10 項目から策定されており、学生には毎年年度開始のオリエンテーションで周知している【4-2-01】。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-2-02】。カリキュラム・ポリシーの策定に関しては、学部教授会で決定を行っている。

【4-2-03】。

【情報学部】

・カリキュラム・ポリシーは旧カリキュラム 12 項目・新カリキュラム 4 項目から策定され

ており、学生には入学時のオリエンテーションなどで周知している【4-2-04】。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-2-02】。

【アニメ・マンガ学部】

・カリキュラム・ポリシーは10項目から策定されており、学生には毎年年度開始のオリエンテーションで周知している【4-2-05】。また学外には、大学ホームページ上で公開している【4-2-02】。

②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性

【事業創造学部】

・カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに沿った社会が求める人材・スキル・知識を明確化し、それに関わる科目配置を行っている。カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの関係性については、カリキュラム体系図としてまとめられている【4-2-06】。

【情報学部】

・カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに沿った社会が求める人材・スキル・知識を明確化し、それに関わる科目配置を行っている。カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの関係性については、カリキュラム体系図としてまとめられている【4-2-07】。

【アニメ・マンガ学部】

・カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに沿った社会が求める人材・スキル・知識を明確化し、それに関わる科目配置を行っている。カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの関係性については、カリキュラム体系図としてまとめられている【4-2-08】。

③カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程の体系的編成

【学部共通】

・カリキュラム・ポリシーに沿った体系的な教育課程の編成については、各年次で学修する具体的科目や水準をカリキュラム体系図として表し、それを学生に周知しつつ実施している（事業創造学部【4-2-06】、情報学部【4-2-07】アニメ・マンガ学部【4-2-08】）。

・シラバスの適切な整備については、シラバス執筆ガイドに沿ったシラバスの作成を各科目担当教員にお願いしている【4-2-09】。

・履修登録単位数の上限設定については学則第29条にも定め【4-2-10】、履修制限（CAP制）として1年間に履修登録できる科目単位数を48単位に上限設定し、それを学生にも周知している【4-2-11】。

・実践的な能力及び応用的な能力の展開や、豊かな人間性や職業倫理を涵養するための教育課程の編成については、学則第23条2項にも定め【4-2-10】、またそれに関連する用語をディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーにも取り込みつつ、具体的カリキュラムを構成している（事業創造学部【4-2-01】、情報学部【4-2-04】、アニメ・マンガ学部【4-2-05】）。また学部においてカリキュラム改訂が行われる際には、全学的な教育課程の編成を検討する教務委員会【4-2-a】にて報告を行っている。

・教育課程連携協議会の意見を勘案した教育課程の編成・見直しについては、年2回の協議会の際に教育課程・カリキュラムの編成・見直しに関して議題に挙げ、各委員からの意見をもらっている（事業創造学部【4-2-12、4-2-13】情報学部【4-2-14、4-2-15】、アニメ・マンガ学部【4-2-16、4-2-17】）。

【事業創造学部】

・基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目に関わる各授業科目の適切な開設については、2024年度から新カリキュラムをスタートしている。そこでは、旧カリキュラム編成の見直しを行い、特に各年次の修得目標・レベルを意識した科目配置・中身の精査を行っている【4-2-18】。

【情報学部】

・基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目に関わる各授業科目の適切な開設については、2024年度から新カリキュラムをスタートしている。そこでは、旧カリキュラム編成の見直しを行い、特に学生の選択の自由度をあげ、柔軟に単位取得を行えるように科目・中身の精査を行なっている【4-2-19】。

【アニメ・マンガ学部】

・基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目に関わる各授業科目の適切な開設については、2025年度から新カリキュラムをスタートする予定である。そこでは、旧カリキュラム編成の見直しを行い、特に制作現場で必須となっている3DCG関連授業の強化、物語芸術に関する教養の幅を広げるための科目の追加、臨地実務実習がより履修しやすくなる改定等を意識した科目配置・中身の精査を行なっている【4-2-20】。

④教養教育の実施

【事業創造学部】

・教養教育については、「基礎科目」群として、全科目のうち約4分の1の科目を配置している【4-2-b】。特に、2024年度スタートの新カリキュラムにおいては、1年次前期の「基礎ゼミ」を新たに設置することで、大学生の学びのスムーズな導入に関わるスタディスキルに注力した授業展開を行っている【4-2-c】。

【情報学部】

・教養教育については、「基礎科目」群として、全科目のうち約4分の1の科目を配置している【4-2-d】。特に、2024年度スタートの新カリキュラムにおいては、1年次第1学期の「基礎ゼミⅠ」を新たに設置することで、大学生の学びのスムーズな導入に関わるスタディスキルに注力した授業展開を行っている【4-2-e】。

【アニメ・マンガ学部】

・教養教育については、「基礎科目」群として、全科目のうち約4分の1の科目を配置している。また職業専門科目においても共通専門分野学修として美術史や文学、映像音響等の科目を配置している【4-2-f】。

⑤教授方法の工夫と効果的な実施

【事業創造学部】

・カリキュラムについては、演習・実習科目を50%配置し、知識やスキルの活用に関わる授業方法をとっている【4-2-b】。また、グループワークの授業方法に関わるFD・SD研修を実施し、教員の教育力向上を図っている【4-2-g】。

・クラスサイズについては、演習・実習科目は上限40人（1学年80人をAクラス・Bクラスの2つに分離）とするなど、教育効果を上げるための授業運営を行っている【4-2-h】。

【情報学部】

・カリキュラムについては、演習・実習科目を50%配置し、知識やスキルの活用に関わる授業方法をとっている【4-2-i】。また、グループワークの授業方法に関わるFD・SD研修を実施し、教員の教育力向上を図っている【4-2-g】。

・クラスサイズについては、演習・実習科目は上限40人（1学年80人をAクラス・Bクラスの2つに分離）とするなど、教育効果を上げるための授業運営を行っている【4-2-j】。

【アニメ・マンガ学部】

・カリキュラムについては、演習・実習科目を50%配置し、知識やスキルの活用に関わる授業方法をとっている【4-2-f】。また、グループワークの授業方法に関わるFD・SD研修を実施し、教員の教育力向上を図っている【4-2-g】。

・クラスサイズについては、演習・実習科目は上限40人（1学年80人をAクラス・Bクラスの2つに分離）とするなど、教育効果を上げるための授業運営を行っている【4-2-k】。

[エビデンス集 (資料編)]

【4-2-01】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.25、75)

【4-2-02】 大学HP「カリキュラム・ポリシー」

<https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp->

[content/themes/kaishi/assets/pdf/openinfo/curriculum-policy.pdf?ver=2](https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/openinfo/curriculum-policy.pdf?ver=2)

【4-2-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.147)

【4-2-04】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.26、76)

【4-2-05】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.27)

【4-2-06】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.48-49、98-99)

【4-2-07】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)

【4-2-08】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.66-67)

【4-2-09】 2024年度新課程用シラバス執筆ガイド

【4-2-10】 KAISHI Campus Guide 2024 (p.143)

【4-2-11】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.29、78)

【4-2-12】 第8回開志専門職大学事業創造学部教育課程連携協議会議事録

【4-2-13】 第9回開志専門職大学事業創造学部教育課程連携協議会議事録

【4-2-14】 2024年度前期 開志専門職大学情報学部教育課程連携協議会議事要旨

【4-2-15】 2024年度後期 開志専門職大学情報学部教育課程連携協議会議事要旨

【4-2-16】 2024年度第1回開志専門職大学アニメ・マンガ学部教育課程連携協議会議事録

【4-2-17】 2024年度第2回開志専門職大学アニメ・マンガ学部教育課程連携協議会議事録

- 【4-2-18】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 98-99)
- 【4-2-19】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 104-105)
- 【4-2-20】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 110-111)
- 【4-2-a】 開志専門職大学 教務委員会規程
- 【4-2-b】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 50-51, 100-101)
- 【4-2-c】 基礎ゼミ授業計画表
- 【4-2-d】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 60-61, 106-107)
- 【4-2-e】 基礎ゼミ I シラバス
- 【4-2-f】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 68-69)
- 【4-2-g】「学生のニーズに応えるグループワークの授業方法」(2024年5月15日(水)FD・SD研修)
- 【4-2-h】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 54-56, p. 102)
- 【4-2-i】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 60-61, 106-107)
- 【4-2-j】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 62-64, p. 108)
- 【4-2-k】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 44-45)

4-3. 学修成果の把握・評価

① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用

② 教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック

(1) 4-3 の自己判定

「基準項目 4-3 を満たしている」

(2) 4-3 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

① 三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用 (1 項目目)

【事業創造学部】

・各学年の学修成果(修得目標)については、カリキュラム体系図に明示化され【4-3-01】、また学生には新年次オリエンテーションにて本体系図を用いて周知しており、単位取得状況レベルでの学習成果を把握している。一方で、各学生の具体的な学修成果を把握・評価は今後の改善の余地がある。

【情報学部】

・学生は、基礎科目・職業専門科目・展開科目・総合科目がそれぞれディプロマ・ポリシーのどの項目に対応しているかをカリキュラム体系図で理解している【4-3-02】。また、学修成果として、CampusPlan WebService の成績情報で、履修登録した授業科目の科目区分・評価と卒業要件に対応する授業科目の修得単位数を確認することができる。学生は、いつでもそれまでに学修した成果を科目区分(ディプロマ・ポリシーの項目)ごとに分類された形式で確認することができ、科目区分ごとに卒業要件に対して不足している単位数を把握することができる。一方、各学生の具体的な学修成果を把握・評価するまでには至っていない。

【アニメ・マンガ学部】

・各学年の学修成果（修得目標）については、カリキュラム体系図に明示化され【4-3-03】、また学生には新年次オリエンテーションにて本体系図を用いて周知している。単位取得状況レベルでの学習成果を把握している。一方で、各学生の具体的な学修成果を把握・評価は今後の改善の余地がある。

①三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用（2項目目）

【事業創造学部】

・2023 年度卒業生に対して、「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート」をキャリアセンターで実施した【4-3-04】。アンケート調査結果は、各学部の教務部会においてディプロマ・ポリシーに関連する項目について分析・検討し、その結果は学内の内部質保証機構においても分析して、各学部の教育課程に反映される仕組みが構築されている【4-3-05】。

【情報学部】

・2023 年度卒業生に対して、「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート」をキャリアセンターで実施した【4-3-04】。アンケート調査結果は、各学部の教務部会においてディプロマ・ポリシーに関連する項目について分析・検討し、その結果は学内の内部質保証機構においても分析して、各学部の教育課程に反映される仕組みが構築されている【4-3-05】。

【アニメ・マンガ学部】

・2023 年度卒業生に対して、「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート」をキャリアセンターで実施した【4-3-04】。アンケート調査結果は、各学部の教務部会においてディプロマ・ポリシーに関連する項目について分析・検討し、その結果は学内の内部質保証機構においても分析して、各学部の教育課程に反映される仕組みが構築されている【4-3-05】。

②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック

・授業評価アンケートを行い、その結果を実習内容の改善に繋げている。全体アンケートについては当該学期に1度まとめて教職員に共有している。また個別アンケートについて、実施時期や内容を教員個々の判断のもとに授業改善を行っている。【4-3-06～4-3-09】【4-3-a】FD・SD研修会各回のアンケート結果を基に、FD・SD研修会の年間スケジュール案、実施概要案が検討され、教育課程や授業の構成に役立つ改善の議論を実施している。【4-3-b～4-3-d】

[エビデンス集（資料編）]

【4-3-01】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.98-99)

【4-3-02】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)

【4-3-03】 KAISHI Campus Guide 2024 (pp.66-67)

【4-3-04】 2023 年度採用企業・卒業生アンケート

- 【4-3-05】 卒業生と就職先企業の実態調査の取り扱いについて
- 【4-3-06】 2024 年度第 4 回 FD・SD 委員会議事録
- 【4-3-07】 2024 年度第 6 回 FD・SD 委員会議事録
- 【4-3-08】 2024 年度第 9 回 FD・SD 委員会議事録
- 【4-3-09】 2024 年度第 12 回 FD・SD 委員会議事録
- 【4-3-a】 【教員の皆さんへ】 授業評価アンケート実施のお願い
- 【4-3-b】 2024 年度 FD・SD 研修会実施スケジュール
- 【4-3-c】 2025 年度 FD・SD 研修会実施スケジュール
- 【4-3-d】 FD・SD 委員会（2024 年度活動方針）

基準 5. 教員・職員

5-1. 教育研究活動のための管理運営の機能性

①学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

②権限の適切な分散と責任の明確化

③職員の配置と役割の明確化

(1) 5-1 の自己判定

「基準項目 5-1 を満たしている。

(2) 5-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①学長の適切なリーダーシップの確立・発揮

本学の教育・研究に係る組織体制は【5-1-01】に示すとおりとなっている。

- ・ 学則第 7 条第 3 項【5-1-02】に「学長は、校務つかさどり、所属職員を統督する。また校務についての最終決定権を有する」と規定しており、学長は大学の意思決定と大学運営責任者としてリーダーシップを発揮し、本学の運営を行っている。
- ・ 学則第 9 条第 1 項に「本学に、総務会を置く」と規定し、同条第 2 項に「総務会は、全学的な重要事項の審議機関であり、学長、副学長、学部長、事務局長及び法人を代表する職員をもって組織する。」と定めている。
- ・ 前述の総務会は毎月開催しており、学長が構成員を招集して議長となり、経営、組織、人事、教育研究、学生の指導・身分、学則の制定および改廃に関すること等、大学運営全般に関する重要事項の審議・決定が学長のリーダーシップの下に行われている。【5-1-03】
- ・ 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長のリーダーシップを補佐する副学長を配置しており、学則第 7 条第 4 項に「副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる」と規定している。

②権限の適切な分散と責任の明確化

- ・ 学則第 9 条第 1 項に「本学に、総務会を置く」と規定し、同条第 2 項に「総務会は、全学的な重要事項の審議機関であり、学長、副学長、学部長、事務局長及び法人を代表する職員をもって組織する。」と定めている。同条第 3 項には審議事項について規定し、総務会規程第 2 条としても定めている。
- ・ 学則第 10 条第 1 項に「本学に、教授会を置く」と規定し、同条第 2 項に「教授会は、学部教授会とし、学部の専任の教授をもって構成する。ただし、必要があるときは、その他の教職員を加えることができる」と定めている。同条第 3 項「教授会は、学長が次に掲げる重要事項について決定を行うに当たり、審議した結果を学長に意見として述べるものとする。」と規定し、教授会規程第 4 条としても定めている。
- ・ 教育課程連携協議会の委員構成は、専門職大学設置基準にもとづき、以下の 1～5 の要件を満たした委員が選任できている。

1. 学長が指名する教員その他の職員

2. 当該専門職大学の課程に係る職業に就いている者又は当該職業に関連する事業

を行う者による団体のうち、広範囲の地域で活動するものの関係者であって、当該職業の実務に関し豊富な経験を有するもの

3. 地方公共団体の職員、地域の事業者による団体の関係者その他の地域の関係者

4. 臨地実務実習（第二十九条第一項第三号に規定する臨地実務実習をいう。）その他の授業科目の開設又は授業の実施において当該専門職大学と協力する事業者

5. 当該専門職大学の教員その他の職員以外の者であって学長が必要と認めるもの

・教育課程連携協議会は学部ごとで開催をされているが、総務会へ紐づいており、外部意見を本学全体の教育課程に反映する役割をなしている。

③職員の配置と役割の明確化

・学部運営を支える事務組織については、各学部に学務部（教務担当、学生担当、臨地実務実習担当）と社会連携推進部（産官学連携担当）、総務部（施設管理、研究支援等）が配置され、各キャンパスで勤務している【5-1-01、5-1-04】。研究支援、奨学金担当など全学的に統一した担当を置くことが適切である業務については、各学部のいずれかの事務職員を配置して全学の業務を集約して行っている。

・職員の任用（採用・昇格）に当たって、職能グレード制を整備・運用しており【5-1-a～5-1-c】、面接や人事考課および本人の希望・適性も踏まえ、適切に任用している。

[エビデンス集（資料編）]

【5-1-01】 2024 年度（令和 6 年度）開志専門職大学 組織図

【5-1-02】 開志専門職大学学則（第 7 条）

【5-1-03】 開志専門職大学 総務会規程

【5-1-04】 開志専門職大学 事務組織規程

【5-1-a】 職員昇格選考規程

【5-1-b】 職能グレード制度規程

【5-1-c】 職能グレード定義

5-2. 教員の配置

①教育研究上の目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任などによる教員の確保と配置

(1) 5-2 の自己判定

「基準項目 5-2 を満たしている。」

(2) 5-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①教育研究上の目的及び教育課程に即した教員の採用・昇任などによる教員の確保と配置

・各学部における専任教員数・教授数・実務家教員数は、全て設置基準上の必要数を満たしている【5-2-a】。具体的な人数は次のとおり（2024 年度）。設置基準上の必要教員数：実際の教員数は、事業創造=12:20、情報=14:17、アニメ・マンガ=10:19、大学全体=50:56。設置基準上の必要教授数：実際の教授数は、事業創造=6:10、情報=7:10、アニメ・マンガ=5:8、大学全体=25:28。設置基準上の必要実務家教員数：実際の実務家教員数は、事業

創造=5:13、情報=6:10、アニメ・マンガ=4:14、大学全体=21:37。

- ・採用および昇任については、開志専門職大学教員選考規程を定め、適切に運用している【5-2-01】。具体的には、専任教員の任用に当たって、複数の教授で構成する教員選考委員会を組織し、履歴書・教育実務業績書等の選考書類に基づく書類選考および面接選考を行い、その資格審査並びに採用及び昇任の適否等について審議している。
- ・大学設置申請書に記載した大学の理念・目的に基づき、教員の編成および大学が求める教員像を学内に明示している【5-2-b、5-2-c】。また、教員募集時にも明示している【5-2-02】。具体的には、専門職大学設置基準「教員の資格」第38条～第42条を基本とし、所定の学位もしくはそれに準ずる教育能力・業績、大学における専任教員歴もしくは同等の能力、専攻分野に関連する実務の経験を概ね5年以上有しかつ高度な実務能力を有することのいずれかを求めるとともに、本学の建学の精神に理解があること、教育と研究に熱意を持ち大学の運営にも協力して業務遂行できることなどを求めている。

[エビデンス集 (資料編)]

【5-2-01】 開志専門職大学 教員選考規程

【5-2-02】 教員採用募集要項 (HP 掲載)

【5-2-a】 大学 HP「情報公開」内「教員に関する情報」<https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>

【5-2-b】 設置の趣旨等を記載した書類 (抜粋) 事業創造学部、情報学部

【5-2-c】 設置の趣旨等を記載した書類 (抜粋) アニメ・マンガ学部

5-3. 教員・職員の研修・職能開発

①FDをはじめとする教育内容・方法などの改善の工夫・開発と効果的な実施

②SDをはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み

(1) 5-3 の自己判定

「基準項目 5-3 を満たしている。」

(2) 5-3 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

① FD をはじめとする教育内容・方法などの改善の工夫・開発と効果的な実施

・FDSD 委員会では、毎学期末に行う授業評価アンケートをもとに、3 学部の回答状況を共有し、教授会、関係委員会との情報共有を図っている。【5-3-01～5-3-04】アンケート結果についてはホームページでも公開している。【5-3-a】

・FD活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につながるために、学生自身が当該学期の授業全体に対する満足度、学修の振り返りを行う全体アンケートと授業個別の実施方法や改善を行う個別アンケートに分けて実施することで、教育効果を測る取り組みの改善を図った【5-3-b】

・教育・研究活動を持続的に改善するための現場の現状課題を幅広く抽出し、優先度の高いテーマについて全体的な研修会を開催・実行した。3 学部共通の観点で、教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上に間接的に貢献する研修会を開催できた。【5-3-05】

② SD をはじめとする大学運営に関わる職員の資質・能力向上への取組み

・職員の資質・能力向上のための研修は、規定に基づき FD・SD 委員会が担当をしている。

【5-3-06】研修計画は前年度における実施の振り返りを前年度末の委員会までに行い、当年度初の委員会で計画を共有し、準備を進めている。【5-3-07、5-3-08、5-3-09】

・3 学部共通で実施した FD・SD 研修のうち、以下の 2 件が該当する。【5-3-10】

まず、新潟大学における、メジャー・マイナー制による分野横断型人材育成モデルを新潟大学浅賀副学長を招聘し研修を実施した。異なる分野をもつ本学において学びの幅を広げるカリキュラムを作成するにあたり、貴重な機会となった。

・新潟大学における教育改革の現状と展望 FD・SD 研修会 (6 月)

次に、弁護士法人中村・大城国際法律事務所の大出弁護士を招聘しての著作権における研修である。授業に関わるケース以外にも AI の活用に伴う著作権の取り扱いなど職員側も参考になる研修であった。

・著作権 (11 月)

[エビデンス集 (資料編)]

【5-3-01】2024 年度第 4 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-02】2024 年度第 6 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-03】2024 年度第 9 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-04】2024 年度第 12 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-05】2024 年度 FD・SD 研修会実施スケジュール

【5-3-06】開志専門職大学 FD・SD 委員会規程

【5-3-07】2024 年度第 11 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-08】2025 年度第 1 回 FD・SD 委員会議事録

【5-3-09】2025 年度第 1 回 FD・SD 委員会資料 5_2024 年度 FD・SD 研修会年間スケジュール

【5-3-10】2025 年度第 1 回 FD・SD 委員会資料 6_2025 年度 FD・SD 研修会年間スケジュール案

【5-3-a】学期末授業評価アンケート結果 (2024 年度 第 1・2 学期) https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/lesson_questionnaire2024.pdf

【5-3-b】【教員の皆さんへ】授業評価アンケート実施のお願い

5-4. 研究支援

①研究環境の整備と適切な管理運営

②研究倫理の確立と厳正な運用

③研究活動への資源の配分

(1) 5-4 の自己判定

「基準項目 5-4 を満たしている。」

(2) 5-4 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

《イノベーション力研究所》

①研究環境の整備と適切な管理運営

- ・イノベーション力研究所は、「事業の創造」及びその元となる「イノベーション力の醸成」に関する研究の推進を行うことを目的としている【5-4-a】。
- ・学内教職員が研究成果を発表する雑誌「イノベーション力研究」を年1回発行している。そのための募集、査読、発行のプロセスを整備している【5-4-b、5-4-c】。
- ・2025年度より、学内で研究成果を発表する場として、「イノベーション力研究所 研究発表会」を年2回開催を計画している【5-4-d】。

《起業家教育研究センター》

①研究環境の整備と適切な管理運営

2024年度より創業支援センターが起業家教育研究センターとなり、「事業の創造」及びその元となる「イノベーション力の醸成」に関する研究に基づき、本学関係者の「創業支援」を行うことを目的とする組織に改編した。同センターは紫竹山キャンパス2Fにあり、インキュベーションルームとプレゼンテーション用備品を配備した環境にある。同センターの業務は以下のとおりである。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 起業家育成の教育・研究に関すること。
- (2) 大学発ベンチャー企業の創業及び成長の支援に関すること。
- (3) 他センター・ラボとの協業、連携に関すること。
- (4) 創業支援に資する産学官連携、オープンイノベーション、創業に関わる人材養成に関すること。
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること【5-4-e】

具体的な取組としては、起業家育成のための課外学習会「起業家道場」と新潟県内の高校・大学・専門学校を主な参加対象としたビジネスアイデアコンテスト「Open Gate NIIGATA」の運営があげられる。【5-4-f】起業家道場を通じて、学生は自分のビジネスアイデアを教員に相談し、メンターとなる教員をみつけ伴走が行う、更に、道場の場で道場参加者にプレゼンすることで発表の練習が行える仕組みを築いた。また、Open Gate NIIGATAでは、ビジネスアイデアを発表し、表彰する場を提供することで、参加学生のチャレンジ精神や、自己肯定感を向上させ、ベンチャーマインド、アントレプレナーシップの醸成を図っている。【5-4-g】

《開志未来創造研究センター》

①研究環境の整備と適切な管理運営

下記の取り組みにより、地域貢献と研究活動に貢献した。

- (1) NSG ソシャルサポートとの共催による子供視点からの障害体験イベントを実施、インクルーシブ教育を実践した【5-4-h】。
- (2) 整備した機材を用いて情報学部4年生のICT活用総合実習における各学生の研究活動拠点として未来創造研究センターを活用し、VR上で新潟市内の高校教員を招き、ICT

活用総合実習プレ発表会（学内向けに行う卒業研究発表会の前段として、学外教育関係者を招いた卒業研究発表会）の実施に至った【5-4-i】。

(3) 地域貢献として、新潟市および長岡市、周辺自治体市民や企業を対象にした「開志 FC ランチもくもく会」を実施し、平日のお昼時の時間をつかい、生成 AI や VR などの(4) 先端技術を学ぶ機会を提供した【5-4-i】。

経営情報学会 スポーツデータエコシステム研究分科会開催(2024年9月4日)【5-4-j】

(5) オープンキャンパスにおける展示協力【5-4-i】

《KAISHI LAB》

①研究環境の整備と適切な管理運営

KAISHI LAB（以下 LAB）は本学の建学の精神「自学・挑戦・創造・貢献」を達成するために運営され、学生が「学んだ知識・培った技術をもものづくりに応用する力」、「ものごとに積極的にチャレンジする自発性」、「感動や共感を呼ぶ表現力といった創造性」を身に付け、「自ら考え行動するクリエイター（創造者）」へと成長するための自主的活動を支援するための施設である【5-4-k】。LABは米山キャンパス7Fに設置されており、作業スペース、工作機械、工具類等を提供するとともに、それらを安全・効率的に活用するために必要な支援・指導および広報活動等を行うことを目的としている【5-4-k】。

LABの業務は以下である【5-4-k】。

（業務）

第3条 LABは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 教育および実習への支援に関すること。
- (2) ものづくりに関する自発的な活動への支援に関すること。
- (3) 研究成果の実用化、研究の推進に係る企業や団体等との産学官連携に関すること。
- (5) 産学官連携、大学発ベンチャー企業に関わる人材養成に関すること。
- (6) LABの施設の貸付及び管理に関すること。
- (7) その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

目的を達成するために以下にあげる具体的な取り組みを行っている。

- ・学内の学生、教職員が自由にものづくり・ことづくりに挑戦できる環境を提供しており、年間を通じて施設や機器の利用者がいる状況を実現している【5-4-l】。
- ・学生の機器利用率向上、安全な利用を促進するために、使用ライセンスの設定、及び技術職員立会いの要否を明確にしている【5-4-m】。安全面、機器管理の観点から使用時には機材利用申請書を提出してもらう仕組みを導入している【5-4-m】。
- ・Works エリアについて機器、特に旋盤、フライス盤、ボール盤、CNC加工機について整備を行い、技術職員立会いのもとで使用可能な状態が保たれている【5-4-n】。
- ・機器利用のためのライセンス講習は随時実施しており、2024年度はのべ39の新規ライセンスを発行している【5-4-o~5-4-s】。
- ・ラボの機材利用の興味促進のための施作として、ものづくり講習イベントを実施しており、2024年は6件のイベントを実施している【5-4-t~5-4-y】。また、学生を講師としたイベントも実施している【5-4-t、5-4-y】。
- ・授業でのラボ機器を利用することから、ものづくり研究のための利用促進を図ってい

る【5-4-z】。

《数理・データサイエンスセンター》

①研究環境の整備と適切な管理運営

数理・データサイエンスセンターは、学部横断的な数理・データサイエンス教育の教育基盤の整備、地域の大学などとの数理・データサイエンス教育に関する連携・普及・促進、数理・データサイエンスに関わる共同研究の推進を目的としており【5-4-c1】、特に研究環境の整備という観点では、以下の活動を実施している。データサイエンスやAIの研究に活用できるPCや書籍、TV会議用の360度カメラなどをセンターの居室に配置しており、教員や学生が予約すればいつでも利用できる環境を整えている。2024年度は、ノートPC1台・図書35冊を追加購入した（全体でPC4台、書籍99冊）。【5-4-d1】。書籍はセンターのメンバーが利用することが多く、センター外の教員や学生からの利便性を高めることが課題だったが、共用が望ましい書籍を図書館の書籍として利用できるルールづくりを図書委員会と連携して実施し、1冊を図書館システムからの予約で利用可能とした(5-4-c1)。居室はNTT共同研究や4年ゼミ研究などで活用されている（利用実績例：2024年6月15件利用）【5-4-e1】

《新潟視覚芸術研究所》

①研究環境の整備と適切な管理運営

研究所は、「現代視覚芸術領域」に関する研究の推進および発信、並びに本学における同領域の専門職育成に関わる支援を行うことを目的としている【5-4-f1】。

所員の専門領域に関連するゲストを招いたトークイベントの実施やシンポジウムへの参加【5-4-g1～5-4-k1】（、また研究成果の公開【5-4-l1、5-4-m1】などを、研究所の人員や予算を用いて支援している。

【5-4-g1】は学部生向けの自由参加プログラムであったため、正確な人数は把握できていないものの、F204教室の半分程度が埋まったため（<https://kaishi-pu.ac.jp/topics/240426/>）、30～40人程度の参加があったと思われる。

【5-4-h1】はオープンキャンパスとの併載となったため、学外者20名程度、学内者で10数名程度の参加があった。

【5-4-i1】は学部生を中心に30名程度の参加があった。

【5-4-j1】は学内者4名の参加があった。

【5-4-k1】はオンライン開催で22名の参加があった。

いずれも学部生を中心に一般参加者を含めて教育および研究に資する試みだったと評価できる。

《紀要編集委員会》

①研究環境の整備と適切な管理運営

アニメ・マンガ分野に関する学術的研究、および同分野の知識・技能教育に関わる研究の、本学アニメ・マンガ学部における発信媒体として、2023年度よりアニメ・マンガ学部紀要編集委員会を発足し【5-4-n1～5-4-r1】、『開志専門職大学アニメ・マンガ学部

紀要『視聴覚物語芸術研究』（以下、『視聴覚物語芸術研究』）を年1回発行している。2024年度時点では第1号・第2号が冊子体で各300部発行されているとともに、新潟総合学園・新潟総合学院機関リポジトリ上にて、電子版としても順次公開している【5-4-s1】。

2023年度発行の第1号では、アニメ・マンガ学部専任教員の企画開催したシンポジウム及びイベントの報告2本、同学部助手による研究ノート1本、同学部研究者教員の単著に対する実務家教員による書評1本を掲載した【5-4-t1】。また2024年度で編集発行された第2号では、教員の執筆した論説および研究ノートを1本ずつ掲載したほか、教員が企画した研究イベントの報告を1本、また教員による調査報告（インタビューおよびフィールド調査）2本を掲載している【5-4-u1】。このように、本紀要は専任教員による各種研究活動の記録、若手を中心とした研究者による研究活動公表及び蓄積の機会提供、実務家教員・研究者教員間での知見の交換による研究水準の向上への寄与等、アニメ・マンガ学部における教育研究活動の維持・向上へと資するための媒体として機能していると評価できる（各号の具体的な掲載内容は5-4-t1および5-4-u1を参照）。

また、2023年度に発行された第1号について、2024年度に日本各地の専門職大学や図書館、アニメ・マンガ分野に関わる大学図書館および文化施設、関係者などへの送付作業を行った【5-4-v1】。

上記のように、『視聴覚物語芸術研究』は教員による研究活動を発信するための媒体として有効に活用されており、本学におけるアニメ・マンガ分野教員の研究環境整備へと資するものとなっている。

なお、第2号には第1期卒業生による卒業展覧会の出展作品リストを掲載した【5-4-w1】。さらに表紙イラストについては学部生からの作品募集とし、計3点の応募作品を表紙および裏表紙へと掲載した【5-4-x1】。こうしたかたちで、学生の学修成果の記録媒体としても活用を模索している。

②研究倫理の確立と厳正な運用

- ・学術研究に携わる者が行うヒトを対象とした研究について、倫理上の妥当性を審査することを目的として「倫理委員会」を設置している。【5-4-01】

「倫理委員会」は、「開志専門職大学 倫理委員会規程」に基づき、学長が指名した本学教員5人、学外の学識経験者1人、その他委員会が必要と認めた教職員若干名で組織され、ヘルシンキ宣言（1964年世界医師会採択）の趣旨に沿って検討し、審査している。

【5-4-01】

- ・「ヒトを対象とする研究」とは、人文社会科学研究、理工学研究、疫学研究及びヒトを対象とする医学系研究等をいい、個人または集団を対象に、その行動、心身もしくは環境等に関する情報を収集し、またはデータ等を採取する作業を含む。（5-4-02）
- ・「開志専門職大学 ヒトを対象とする研究規程」に基づき、倫理審査申請書には研究対象者にインフォームド・コンセントを果たした書類と、研究対象者の同意書を添えることとしている。【5-4-03～5-4-05】
- ・教職員が研究活動を適正に推進するため、「研究活動に係る不正行為の防止および対応に関する規程」を定めるとともに、不正行為の事前防止のための取り組みとして「研究活

動に係る行動規範」を定めている。【5-4-06、5-4-07】

- ・教職員が研究費を適正に使用するために「個人研究費取扱規程」を定めるとともに、不正使用の事前防止の取り組みとして「公的研究費不正使用防止計画」及び「公的研究費の不正使用防止に関する規程」を定めている。【5-4-08～5-4-10】
- ・適正な研究費使用を管理するために、管理職者における役割、責任の所在・範囲と権限を記した「公的研究費の運営・管理（不正使用防止）に関わる者の責任の範囲と権限」を定めている。【5-4-11】
- ・適正な研究活動並びに研究費使用を促進するために、すべての教員に対して研究倫理教育及びコンプライアンス教育のプログラム受講を義務付けており、プログラム修了率は100%である。【5-4-12、5-4-13】
- ・公的研究費の申請、使用及び管理に係る教職員に対して、研究費の不正使用を行わない旨の「誓約書」を提出させている。【5-4-14】

③研究活動への資源の配分

- ・本学では、専任教員に対し、研究助成として年間30万円の個人研究費を配分し、積極的に研究支援を行っている。また、助手に対しては申請に基づき年間10万円を上限として配分している。【5-4-08】
- ・3学部がある3キャンパスには、それぞれ図書館または図書室を設置しており、教員の研究活動を支援している。また2024年度には機関リポジトリを構築し、研究成果公表の機会を提供している。【5-4-y1、5-4-z1】
- ・本学には全学的な組織として附属研究所ならびにセンターを設置している。事業創造学部がある紫竹山キャンパスにはイノベーション力研究所があり、情報学部がある米山キャンパスには開志未来創造研究センターと数理データサイエンスセンターがあり、アニメ・マンガ学部がある古町キャンパスには新潟視覚芸術研究所（RIVNA）があり、それぞれ本学の研究活動を推進するための活動を行っている。【5-4-a、5-4-a2、5-4-c1、5-4-f1】
- ・研究活動を支える人的支援として、文部科学省が育成・活用することを支援している「認定URA（リサーチ・アドミニストレーター）」を研究支援職員が2024年度に取得し、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等幅広く研究支援を行っている。【5-4-b2】
- ・定期的に科研費獲得のためのFD・SD研修会を開催し、科研費申請促進や研究活動の活性化に資する取り組みを行っている【5-4-15～5-4-17】
- ・継続的な研究成果の創出に資するため、2022年度に「研究推進ポータル」を開設し、現在に至るまで、外部研究費公募情報や研究支援セミナーなどを学内に情報発信している。【5-4-18】
- ・科研費の獲得実績として、2020年度に2件、2021年度に5件（継続課題含む）、2022年度に6件（同）、2023年度に6件（同）、2024年度に7件（同）、2025年度に6件（同）となっている【5-4-19】。また、科研費以外の外部研究費では、2022年度に5件、2023年度に4件、2024年度に2件、2025年度に2件であった【5-4-20】。

[エビデンス集 (資料編)]

- 【5-4-01】 開志専門職大学 倫理委員会規程
- 【5-4-02】 開志専門職大学 ヒトを対象とする研究規程
- 【5-4-03】 別紙様式第 1_ヒトを対象とする研究倫理審査申請書
- 【5-4-04】 別紙様式第 3_研究協力者のお願い
- 【5-4-05】 別紙様式第 4_研究協力者同意書
- 【5-4-06】 開志専門職大学における研究活動に係る不正行為の防止および対応に関する規程
- 【5-4-07】 開志専門職大学 研究活動に係る行動規範
- 【5-4-08】 開志専門職大学 個人研究費取扱規程
- 【5-4-09】 開志専門職大学 公的研究費不正使用防止計画
- 【5-4-10】 開志専門職大学 公的研究費の不正使用防止に関する規程
- 【5-4-11】 公的研究費の運営・管理（不正使用防止）に関わる者の責任の範囲と権限
- 【5-4-12】 研究倫理教育の受講に関する内規
- 【5-4-13】 研究倫理 e ラーニング修了状況
- 【5-4-14】 誓約書
- 【5-4-15】 20220518 FD・SD 研修会資料
- 【5-4-16】 20241030 FD・SD 研修会資料
- 【5-4-17】 20250618 FD・SD 研修会資料
- 【5-4-18】 研究推進ポータルサイト
- 【5-4-19】 2020-2025 科研費獲得者一覧
- 【5-4-20】 科研費以外の外部研究費年度別獲得状況
- 【5-4-a】 開志専門職大学 イノベーション力研究規程
- 【5-4-b】 2023 年度「イノベーション力研究」募集要項
- 【5-4-c】 「イノベーション力研究 Vol.2」発行総務会報告
- 【5-4-d】 「イノベーション力研究所 研究発表会」（企画書）
- 【5-4-e】 開志専門職大学 起業家教育研究センター規程
- 【5-4-f】 OpenGateNIIGATA2024 パンフレット
- 【5-4-g】 【教授会報告】 起業家教育研究センター
- 【5-4-h】 障害体験イベントチラシ
- 【5-4-i】 開志未来創造研究センター 2024 年度活動報告・2025 年度活動計画
- 【5-4-j】 経営情報学会スポーツデータエコシステム研究分科会の案内
- 【5-4-k】 開志専門職大学 KAISHI LAB 規程
- 【5-4-l】 2024 年度 KAISHI LAB 年間入館者数_2025_03 教授会報告資料
- 【5-4-m】 KAISHI LAB 機材利用申請書
- 【5-4-n】 2024 年度 WORKS エリア追加機材及びメンテナンス作業について。
- 【5-4-o】 KAISHI LAB 6 月度報告事項
- 【5-4-p】 KAISHI LAB 7 月度報告事項
- 【5-4-q】 KAISHI LAB 8 月度報告事項
- 【5-4-r】 KAISHI LAB 10 月度報告事項
- 【5-4-s】 KAISHI LAB 11 月度報告事項

- 【5-4-t】 情報学部 3 年生によるものづくりイベント
 - 【5-4-u】 Bluetooth スピーカー制作イベント
 - 【5-4-v】 3D モデリングイベント
 - 【5-4-w】 【DMM.make AKIBA × KAISHI LAB】 ミュージックボックス製作イベントを実施しました
 - 【5-4-x】 【DMM.make AKIBA】 電子工作入門講座を開催しました
 - 【5-4-y】 2024 年度第 10 回 開志専門職大学 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
 - 【5-4-z】 2024 年度第 4 回 開志専門職大学 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
 - 【5-4-a1】 2024 年度第 6 回 開志専門職大学 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
 - 【5-4-b1】 第 3 回 燕三条医工連携デザインコンペティションにて情報学部学生がグランプリを受賞
 - 【5-4-c1】 開志専門職大学 数理・データサイエンスセンター規定
 - 【5-4-d1】 数理・データサイエンスセンター備品管理
 - 【5-4-e1】 2024 年度第 4 回数理・データサイエンスセンター会議議事要旨
 - 【5-4-f1】 開志専門職大学 新潟視覚芸術研究所規程
 - 【5-4-g1】 20240426 映像編集特別講義「ゴジラ-1.0」についての編集技術
 - 【5-4-h1】 20240907 コラボレーション・スペシャルトークイベント
 - 【5-4-i1】 20240224 参考試写つき研究トークイベント「文学研究とアニメ研究の横断的交流——アニメ映画『片腕』を通して」
 - 【5-4-j1】 20250304 田中絹代女優デビュー100 周年企画
 - 【5-4-k1】 20250323 オンライントークイベント「マンガをめぐるジャーナリズムの現在」
 - 【5-4-l1】 真木太郎氏インタビューWeb 版①
 - 【5-4-m1】 竹内孝次氏インタビューWeb 版①
 - 【5-4-n1】 2024 年度第 1 回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
 - 【5-4-o1】 2024 年度第 2 回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
 - 【5-4-p1】 2024 年度第 3 回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
 - 【5-4-q1】 開志専門職大学 アニメ・マンガ学部紀要編集委員会規程
 - 【5-4-r1】 開志専門職大学 アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 要項・投稿規定
 - 【5-4-s1】 新潟総合学園・新潟総合学院機関リポジトリ
- https://nsg.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search
- 【5-4-t1】 開志専門職大学アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 第 1 号 (抜粋)
 - 【5-4-u1】 開志専門職大学アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 第 2 号 (抜粋)
 - 【5-4-v1】 紀要送付先リスト アニメ・マンガ学部紀要編集委員会
 - 【5-4-w1】 紀要第 2 号 総合制作研究実習リスト掲載について (学生告知用)
 - 【5-4-x1】 アニメ・マンガ学部紀要第 2 号 表紙イラスト募集要項
 - 【5-4-y1】 開志専門職大学 機関リポジトリ運用指針
 - 【5-4-z1】 開志専門職大学 オープンアクセス方針
 - 【5-4-a2】 開志専門職大学 開志未来創造研究センター規程
 - 【5-4-b2】 認定 URA 証書

基準 6. 経営・管理と財務

6-1. 経営の規律と誠実性

①経営の規律と誠実性の維持

②環境保全、人権、安全への配慮

(1) 6-1 の自己判定

「基準項目 6-1 を満たしている。」

(2) 6-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①経営の規律と誠実性の維持

・令和 7 年改正私立学校法の施行に伴って、組織倫理に関する規則、また体制の整備を行っている。令和 7 年 3 月 31 日開催の理事会において、1、内部統制システムの基本方針【6-1-01】を定め、理事の職務および決裁権限規程【6-1-a】、コンプライアンス規程【6-1-b】、危機管理規程【6-1-02】の整備を行っている。事務分掌についても現行の組織体制に合わせた整理を行い、事務組織規程【6-1-c】の改定を令和 7 年 4 月 1 日を行っている。

・情報の公表については、寄附行為の補足、(情報の公表)に定めるとともに、情報公開および計算書類等閲覧規程【6-1-03】にその内容について定め、運用することとしている。なお情報の公開については大学の HP【6-1-04】で閲覧できるものとしている。

②環境保全、人権、安全への配慮

・「開志専門職大学人権委員会規程」【6-1-d】および「ハラスメントの防止及び対策等に関するガイドライン」【6-1-05】を整備・運用しており、ハラスメント防止研修を毎年度必ず定期的に開催するなど、適切な体制と行動指針をもって学生・教職員・学外関係者等の人権保障に対応できている。

・省エネ・クールビズの励行など、環境に配慮した大学運営を進めている。具体的には、階段使用を励行する掲示物の掲示、白熱球から LED 照明への取り換え、クールビズ期間（5 月 1 日～10 月 31 日）を定め、ノーネクタイ・ノージャケット・室温温度設定 28 度を推奨している。

・「開志専門職大学危機管理規程」【6-1-06】および「開志専門職大学危機管理基本マニュアル」【6-1-07】を整備・運用しており、教職員・学生を対象にした防災訓練を毎年度必ず定期的に実施し、2024 年度は紫竹山キャンパスで 4 月 24 日 13:15～14:00 に行い、計 91 名参加、米山キャンパスで 1 月 21 日 10:50～11:25 に行い、計 53 名参加。訓練内容は避難訓練、通報訓練、消火訓練を行った。古町ルフルキャンパスは 10 月 11 日 15:15～16:00 に実施された防災センター主催の防災訓練に参加した。また、新潟県内で震度 5 弱以上の地震が発生した場合、全教職員が導入しているアプリ「MyiD」より災害時安否確認が自動的に発信され、安否状況の確認が一括して行えるようになっており、適切な体制と行動指針をもって学内外の危機管理に対応できている。

[エビデンス集（資料編）]

【6-1-01】新潟総合学院 内部統制システムの基本方針

【6-1-02】学校法人新潟総合学院 危機管理規程

- 【6-1-03】 学校法人新潟総合学院 情報公開および計算書類等閲覧規程
- 【6-1-04】 大学 HP 「情報公開」 <https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/>
- 【6-1-05】 開志専門職大学 ハラスメントの防止及び対策等に関するガイドライン
- 【6-1-06】 開志専門職大学 危機管理規程
- 【6-1-07】 開志専門職大学 危機管理基本マニュアル
- 【6-1-a】 学校法人新潟総合学院 理事の職務および決裁権限規程
- 【6-1-b】 学校法人新潟総合学院 コンプライアンス推進規程
- 【6-1-c】 学校法人新潟総合学院 事務組織規程
- 【6-1-d】 開志専門職大学 人権委員会規程

6-2. 理事会の機能

①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

②使命・目的の達成への継続的努力

(1) 6-2 の自己判定

「基準項目 6-2 を満たしている。」

(2) 6-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①使命・目的の達成に向けて意思決定ができる体制の整備とその機能性

・学校法人の使命・目的の達成に向けて理事会を置き、法人の業務に関する事項を決している。理事の職務、理事会の運営については寄附行為に定めるところにより執行、運営している。【6-2-01】

・令和 7 年 4 月 1 日施行の改正私立学校法の改正に伴い、寄附行為変更を行い、令和 7 年度定時評議員会の終結をもち、理事の任期満了に伴う理事の選任を行っている。【6-2-02】

②使命・目的の達成への継続的努力

・令和 6 年度の当初予算は、令和 6 年 3 月 29 日開催の理事会において決議・承認している。大学の運営を行って行くにあたり発生した予算の補正（学生数の確定、校舎の修繕等）についても、年度内の理事会において決議・承認している。【6-2-a】

・令和 6 年度迄は開志専門職大学の設置計画履行期間中ではあったが、今後安定した経営基盤の確保のため、中長期的な計画について見直すこととしている。

[エビデンス集（資料編）]

【6-2-01】 議事録（理事選任決議）※未提出 閲覧可

【6-2-02】 資料（理事の職務執行状況報告）※未提出 閲覧可

【6-2-a】 議事録（予算決議）※未提出 閲覧可

6-3. 管理運営の円滑化とチェック機能

①法人の意思決定の円滑化

②評議員会と監事のチェック機能

(1) 6-3 の自己判定

「基準項目 6-3 を満たしている。」

(2) 6-3 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①法人の意思決定の円滑化

・令和 6 年度において、寄附行為の定めに基づき、法人の業務に関する重要事項については、あらかじめ評議員会で諮問し、理事会において議決している。【6-3-01、6-3-02】

②評議員会と監事のチェック機能

・改正私立学校法の施行に伴い、令和 7 年 4 月 1 日施行の寄附行為変更を行っており、その寄附行為の定めに基づき、令和 7 年度定時評議員会の終結をもって旧寄附行為に定めにある評議員 15 名、監事 2 名が任期満了をもって辞任した。新寄附行為に基づく監事 2 名、会計監査人 1 名を令和 7 年 5 月 30 日開催の評議員会において選任し、評議員 8 名については令和 7 年度定時評議員会において選任している。【6-3-03、6-3-04】

・令和 6 年度における監事監査については、令和 6 年 5 月 1 日に定めた監事監査計画書【6-3-05】に準じて、業務監査、会計監査を内部監査室と連携の上で実施している。また令和 7 年 3 月 31 日開催の理事会において監事監査規程【6-3-06】を整備し、運用している。

[エビデンス集（資料編）]

【6-3-01】議事録（決算承認）※未提出 閲覧可

【6-3-02】議事録（補正予算承認）※未提出 閲覧可

【6-3-03】議事録（評議員選任）※未提出 閲覧可

【6-3-04】議事録（監事・会計監査人選任）※未提出 閲覧可

【6-3-05】監事監査計画書

【6-3-06】学校法人新潟総合学院 監事監査規程

6-4. 財務基盤と収支

①財務基盤の確立

②収支バランスの確保

③中期的な計画に基づく適切な財務運営

(1) 6-4 の自己判定

「基準項目 6-4 を満たしている。」

(2) 6-4 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①財務基盤の確立

・財政基盤については、開学時の設置申請に従い財政運用を行っている。
・その一方で、開学時より歳入の大きな部分を占める学生生徒等納付金は全学部において学生数が充足していないため、開学時の予想を下回った結果となっている。
・これについては 2024 年度までの予算執行において、歳入見込みであった不足分においては自己資金による運営を行うことで補填、遊休不動産や保有有価証券の売却等による財

務対策を実施している。

・中・長期的な大学運営を見据えた資金需要や、経済情勢の変化による偶発的な支出に備える長期的視点に立ったキャッシュフロー管理も行っており、2025年度期中において金融機関からの資金調達を実行予定である。【6-4-01】

②収支バランスの確保

・当初の事業計画においては、開志専門職大学アニメ・マンガ学部が完成年度となる令和7年3月期での収支の均衡を目指した学校運営を進めてきたが、令和6年度までの実績として経常収支差額がマイナスで推移している経営上の課題があり、その対応策として運営効率化によるコストコントロールや、教育水準を保った上での経費削減を段階的に実行し、法人全体としての収支構造の改善にも取り組んでいる。

・新たな収益源、外部資金確保のための施策の1つとして、開志創造高等学校の運営による事業拡張を行う。

・その他の施策としては、研究活動の質向上による科研費獲得数の増進や、開志専門職大学の教育特色にマッチするその他の助成金の申請を推進している。

・多様な収入源を確保する施策として、当法人は2023年度に特定公益増進法人の証明書の交付を受け、寄付者が個人の場合の税の優遇措置が受けられる体制を整え、大学HP等より受け入れを行っている。加えて2024年度において、後援会が発足し、この後援会からの安定的な寄付の受け入れを実施しており、今後も戦略的な寄付金募集に取り組む。

【6-4-01】

③中期的な計画に基づく適切な財務運営

・収支改善・運営効率化実現の施策の一つとして、校舎統合の実施を予定している。具体的には、開志専門職大学紫竹山キャンパスに教育特色にも親和性のある事業創造学部、情報学部の2学部を集約、米山キャンパスの半分の校舎に開志創造高等学校（広域通信制高等学校）の校舎を移転する予定である。

・米山校舎の残りの区画においては、他の学校事業への不動産賃貸を検討している。この移転計画において不動産収益収入と冗費削減を織り込み、法人全体としての増収を見込んでいる。

・中長期的に予測されるキャッシュフローのマイナスへの対策として、金融機関からの長期借入を2025年度期中において実行予定である。【6-4-01】

[エビデンス集（資料編）]

【6-4-01】 事業計画書

6-5. 会計

①会計処理の適正な実施

②会計監査の体制整備と厳正な実施

(1) 6-5 の自己判定

「基準項目 6-5 を満たしている。」

(2) 6-5 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①会計処理の適正な実施

- ・法人事務局経理課において、「学校法人新潟総合学院経理規程」に則り適切に実施しており、また、監査法人より監査を受けている。【6-5-01】
- ・予算の補正については、評議員会における諮問、理事会における議決を経て編成されている。

②会計監査の体制整備と厳正な実施

- ・会計監査人については令和7年5月30日開催の評議員会において選任している。【6-5-a】
- ・会計監査を行う体制については、法人事務局経理担当部門がカウンターパートとなり、年度毎に監査計画説明書の内容に基づき、実施されている。また年間1回、監事、内部監査室、監査法人（会計監査人）が参集し、三様監査を実施し、法人の業務監査、並びに財産状況について意見交換を実施している。”

[エビデンス集（資料編）]

【6-5-01】 学校法人新潟総合学院 経理規程 ※非公開

【6-5-a】 議事録（監事・会計監査人選任）※未提出 閲覧可

Ⅳ. 大学が独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 臨地実務実習

A-1. 臨地実務実習の実施方法及び教育効果

①臨地実務実習の展開

②臨地実務実習の教育効果

(1) A-1 の自己判定

「基準項目 A-1 を満たしている。」

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

①臨地実務実習の展開

【事業創造学部】

・臨地実務実習委員会規程【A-1-01】に基づき、臨地実務実習の運用体制が整備され下記の実習を実施している（臨地実務実習委員会議事録参照【A-1-02～A-1-13】）。

企業内実習Ⅰ 60 時間

企業内実習Ⅱ 270 時間

企業内実習Ⅲ 330 時間

・教育成果については、各実習の成果物を成果報告会にて発表を行っている。【A-1-14】

【情報学部】

・下記のように、臨地実務実習の運用体制が整備されている。

➤ 臨地実務実習委員会の体制図【A-1-15】

➤ 情報学部教員の役割分担→担当する実習先のリスト【A-1-15】

➤ 新規実習先開拓、協定書の取り交わし、宿泊設備の手配など学務課体制【A-1-15】

➤ 実習と就職採用活動とのシナジー効果：キャリアセンター、合同説明会などのシナジー効果【A-1-16】

・シンポジウムを中心に学習成果を発表している。

➤ シンポジウムでのポスターセッション、YOUTUBE 動画公開配信、シンポジウム報告書

➤ 学生数に対して、実習先の数、実習時間、Cam トレ報告を行っている。

【アニメ・マンガ学部】

・以下の臨地実務実習を実施している。

『文化啓発施設運営実務Ⅰ・Ⅱ』

2 年生対象 期間：7.5 時間/週×8 週（60 時間）（4～8 月、9～2 月）

『デジタルペイント実務Ⅰ・Ⅱ』

2. 3 年生対象 期間：7.5 時間×8 日（60 時間）（8,9 月に集中実施）

『アニメ制作実務Ⅰ』

3 年生対象 期間：6 時間×25 日（150 時間）（12～2 月の 5 週程度）

『キャラクターイラスト・マンガ実務Ⅰ』

3年生対象 期間：6時間×25日（150時間）（12～2月の5週程度）

『イラスト実務実習』

3年生対象 期間：10時間/週×15週（150時間）（4～8月の15週間）

『印刷・広告実習Ⅰ・Ⅱ』

3年生対象 期間：7.5時間×8日（60時間）（9月、3月に集中実施）

『アニメ制作実務Ⅱ』

4年生対象 期間：6時間×40日（240時間）（6～8月の8週程度）

『キャラクターイラスト・マンガ実務Ⅱ』

4年生対象 期間：6時間×40日（240時間）（6～8月の8週程度）

- ・アニメ・マンガ学部は臨地実務実習委員会を設け、委員が各科目に関する状況確認を分担することで、毎月の委員会において各科目の実施状況を集約・把握している。【A-1-17】
- ・実習先施設・企業については各科目の担当教員が学務課と連携しつつ選定し、実習受け入れ先側の担当者と日程や実習内容についての打ち合わせを通じて実習を実施している。実習実施前には、担当教員により事前の説明会・オリエンテーションを行うことで、実習の目的や実習先の情報について学生へと開示している【A-1-18】
- ・教育成果については、HPにて公表している <https://kaishi-pu.ac.jp/internship/>

②臨地実務実習の教育効果

【事業創造学部】

- ・ディプロマ・ポリシーに対する実習が行われている【A-1-19】。また、シラバスに従った実習（企業内実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）が実施されている【A-1-20～A-1-22】。
- ・キャリアセンター実施の卒業生アンケートの結果を自己測定し、これを踏まえ、今後調査し実習の効果を測定しており、実習の成果があらわれている【A-1-23】。

【情報学部】

- ・臨地実務実習が「高度な専門職業人（材）」として反映されている。
 - 実習テーマの一覧、実習テーマの難易度、企業の現場における実務に匹敵するかどうかの分析【A-1-24】
 - 企業アンケート結果から、高度な専門職業人材にとって必要な実習内容といえるかどうか考察【A-1-24】
- ・卒業後のキャリアパスへの影響についてアンケートを実施している。
 - 実習配属アンケートの仕組み、学生の希望の充足度合、現場体験から得られたノウハウの実体【A-1-24】
 - 実習先への就職成功確率【A-1-25】

【アニメ・マンガ学部】

- ・臨地実務実習が「高度な専門職業人（材）」への反映については、専門職大学の特徴の1つであり、大学は企業や各種団体と連携して授業を運営している。企業内で実習することにより、社会人としてのマナーや振る舞いはもちろん、ビジネススキルやコミュニケ

ーションスキルが身につけている。実習先企業から就職の内定をもらう学生も出てきており、卒業後を見据えた準備として、重要な授業となっている。

- ・卒業後のキャリアパスへの影響については、臨地実務先企業への就職や、臨地実務での経験から他業界への就職希望などにもつながっていることを確認している。

【エビデンス集（資料編）】

- 【A-1-01】 開志専門職大学 臨地実務実習委員会規程 2021. 4. 1
- 【A-1-02】 第1回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-03】 第2回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-04】 第3回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-05】 第4回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-06】 第5回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-07】 第6回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-08】 第7回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-09】 第8回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-10】 第9回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-11】 第10回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-12】 第11回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-13】 第12回臨地実務実習委員会 議事録
- 【A-1-14】 大学ホームページ 「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート結果報告書 企業調査 卒業生調査」
- 【A-1-15】 2024 実習委員会のプラン案 v0.6
- 【A-1-16】 専門職大学における産学協働の仕事統合型教育はイノベータを生むことができるか、成果と課題 (pp. 10-12)
- 【A-1-17】 2024 年度_アニメ・マンガ学部臨地実務実習委員会体制図
- 【A-1-18】 2024 年度_4 学期臨地実務実習_全体オリエンテーション資料
- 【A-1-19】 ディプロマポリシー
- 【A-1-20】 60 企業内実習Ⅰ 石川秀才 (専)
- 【A-1-21】 61 企業内実習Ⅱ 小川元也 (専)
- 【A-1-22】 62 企業内実習Ⅲ 明珍儀隆 (専)
- 【A-1-23】 大学ホームページ「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート結果報告書 企業調査 卒業生調査」
- 【A-1-24】 専門職大学における産学協働の仕事統合型教育はイノベータを生むことができるか、成果と課題 (pp. 13-14、pp. 16-17)
- 【A-1-25】 2025 情報 20250207

基準B. 地域社会への貢献

B-1. 地域社会連携活動

①地域貢献活動

②社会連携活動

(1) B-1 の自己判定

「基準項目 B-1 を見たしている」

(2) B-1 の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)

①地域貢献活動

1. 地域社会のニーズに応える大学運営

・委員会規程【B-1-01】に基づき、3学部委員による月例審議で取組を確認している。

(主な活動)

・文科省委託事業「農業リカレント教育プラットフォーム」に参画し、経営者向け動画・講座を提供【B-1-02】。

・NEC・NTT・シスココンサルティングとの協定を締結し、共同研究を推進【B-1-03～05】。

・「開志コラボセミナー」を全3回開催し、社会人向けリカレント教育を展開【B-1-06～08】。

・小中学校11校を受入れ、地域交流と普及を推進【B-1-09】。

・「Open Gate NIIGATA2024」を開催し、高校・専門分野有識者との連携を強化【B-1-10】。

・五泉市で徳田副学長による行動経済学ワークショップを実施【B-1-11】。

2. 地域社会活動の推進

・亀田製菓と学生18名が「米菓の新価値創造プロジェクト」を開始【B-1-12】。

・Fusion'z社と教育・研究に関する協定を締結【B-1-13】。

②社会連携活動

【事業創造学部】

1. 地域社会のニーズに応える人材育成

・パール金属(株)と覚書を締結し、学生6名が新商品企画とマーケティング提案を実施【B-1-14】。

2. 地域社会活動の推進

・「NIIGATA 光のページェント」に向け、学生が募金活動や学校連携によるPR活動に参加【B-1-15】。

【情報学部】

1. 地域社会のニーズに応える人材育成

・産学連携による学習機会を拡充 (JBS プログラム、ソフト協セミナー、生成AIワークショップ等)【B-1-16～18】。

2. 地域社会活動の推進

- ・技術者交流「Niigata5分Tech」（年5回）やAWSハンズオンを支援【B-1-19】。
- ・ミラプロハッカソン、障がい体験イベント、県警サイバーボランティア委嘱など社会課題解決に取組【B-1-20～22】。

【アニメ・マンガ学部】

- ・「アニメマンガバレー構想」有識者会議を2回開催【B-1-23】。
- ・観光庁補助事業「まんがブートキャンプ」で外国人向けモニターツアーを実施、計21名参加【B-1-24】。
- ・「新潟国際アニメーション映画祭」において、学科教室を活用したアニメブートキャンプを実施。

[エビデンス集（資料編）]

- 【B-1-01】 開志専門職大学 産官学連携・国際交流委員会規程
- 【B-1-02】 農業リカレント 委託業務完了報告書 開志専門職大学
- 【B-1-03】 NEC 包括連携協定書
- 【B-1-04】 NTT 共同研究 概要説明
- 【B-1-05】 シスココンサルティング共同研究 説明資料
- 【B-1-06】 第17回開志コラボセミナー
- 【B-1-07】 第18回開志コラボセミナー
- 【B-1-08】 第19回開志コラボセミナー
- 【B-1-09】 2024年度事業報告書（p.45）
- 【B-1-10】 OPEN GATE NIIGATA2024
- 【B-1-11】 2024年度事業報告書（pp.46-47）
- 【B-1-12】 亀田製菓×開志専門職大学プロジェクト覚書
- 【B-1-13】 株式会社 Fusion'z 協定書
- 【B-1-14】 パール金属株式会社と開志専門職大学事業創造学部におけるプロジェクト覚書
- 【B-1-15】 2024年度事業報告書（p.40）
- 【B-1-16】 SAJ エグゼクティブセミナー新潟 開志専門職大学
- 【B-1-17】 エグゼクティブセミナー申込者一覧 企業名
- 【B-1-18】 2024年度事業報告書（p.21）
- 【B-1-19】 Niigata5分Tech 開催実績
- 【B-1-20】 子どもたちの真剣な表情を思いっきり楽しめるミラプロハッカソン大会
- 【B-1-21】 新潟初!小中学生が挑む熱いプログラミング競技「第4回ミラプロハッカソン」開催
- 【B-1-22】 情報学部 ICT活用総合実習 VRで障がい体験イベント
- 【B-1-23】 新潟アニメ・マンガ・バレーを含めた構想による地域活性化モデル構築調査事業 有識者会議要約
- 【B-1-24】 まんがブートキャンプ（プレミアムインバウンドツアー）資料

V. エビデンス集一覧

基準 1. 使命・目的

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	
大学のウェブサイトで使命・目的、教育研究上の目的などを示す部分の URL	
【1-1-01】	建学の精神と大学の目的 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【1-1-a】	KAISHI Campus Guide 2024 (表紙ウラと隣の頁、pp. 146)
【1-1-b】	開志専門職大学 将来計画 (Kaishi Vision 2032) https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/kaishi%20vision%202032.pdf
【1-1-c】	KAISHI Campus Guide 2024(表紙ウラと隣の頁、pp. 25-27、pp. 75-76、pp. 146)
【1-1-d】	開志専門職大学学則 (第 6 条)
【1-1-e】	開志専門職大学教育課程連携協議会規程

基準 2. 内部質保証

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
2-1. 内部質保証の組織体制	
内部質保証のための組織図	
【2-1-01】	2024 年度 (令和 6 年度) 開志専門職大学 組織図
内部質保証に関する全学的な方針	
【2-1-02】	開志専門職大学 将来計画機構規程
【2-1-03】	開志専門職大学 内部質保証機構規程
【2-1-04】	開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程
内部質保証に責任を持つ会議体の規則	
【2-1-03】	開志専門職大学 内部質保証機構規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【2-1-a】	2024 年度第 1 回総務会全資料 (pp. 39-42)
2-2. 内部質保証のための自己点検・評価	
直近の自己点検・評価の報告書	
【2-2-01】	自己点検評価・第三者機関大学評価 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
【2-2-03】	2020 年度自己点検・評価報告書
【2-2-04】	2021 年度自己点検・評価報告書
【2-2-05】	2022 年度自己点検・評価報告書
【2-2-06】	2023 年度自己点検・評価報告書
IR などを検討する会議体の規則	

開志専門職大学

【2-2-02】	学校法人新潟総合学院事務組織規程
自己点検・評価に関する規則	
【2-2-07】	開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【2-2-a】	授業アンケート改定案
【2-2-b】	図書館利用者アンケート
【2-2-c】	2022 年度第 19 回総務会資料
2-3. 内部質保証の機能性	
自己点検・評価などの結果を学生や学外関係者に公表・説明したことを示す文書など	
【2-3-01】	自己点検評価・第三者機関大学評価 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【2-3-a】	2024 年度第 2 回学生委員会議事録
【2-3-b】	2024 年度第 3 回学生委員会議事録
【2-3-c】	学生アンケート集計結果_事業創造学部
【2-3-d】	学生アンケートのフィードバック
【2-3-e】	学生フォロー面談
【2-3-f】	学生アンケート集計結果_情報学部
【2-3-g】	学生アンケート集計結果_アニメ・マンガ学部
【2-3-h】	開志専門職大学 教育課程連携協議会規程
【2-3-i】	2024 年度第 1 回教育課程連携協議会議事録
【2-3-j】	2024 年度第 2 回教育課程連携協議会議事録
【2-3-k】	アニメ・マンガ学部教育課程連携協議会議事録 (2023 年度・2024 年度)
【2-3-l】	開志専門職大学 将来計画機構規程
【2-3-m】	開志専門職大学 内部質保証機構規程
【2-3-n】	開志専門職大学 自己点検・評価委員会規程
【2-3-o】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 98-102、p. 76、pp. 104-108)
【2-3-p】	学部等の設置関係 https://kaishi-pu.ac.jp/establish/

基準 3. 学生

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
3-1. 学生の受入れ	
アドミッション・ポリシーを示す部分の URL	
【3-1-01】	大学 HP 「学生募集要項」 https://kaishi-pu.ac.jp/admissions/examination/
【3-1-02】	大学 HP 「アドミッション・ポリシー」 https://kaishi-pu.ac.jp/ao/
【3-1-03】	2025 年度入試説明資料
アドミッション・ポリシーを策定する会議体の規則	

開志専門職大学

【3-1-04】	開志専門職大学 入試・広報委員会規程
入試方法の検討と検証を行う会議体の規則	
【3-1-04】	開志専門職大学 入試・広報委員会規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【3-1-a】	2024年度第9回入試・広報委員会議事録
【3-1-b】	2024年度第10回入試・広報委員会議事録
【3-1-c】	2024年度第11回入試・広報委員会議事録
【3-1-d】	2024年度第12回入試・広報委員会議事録
【3-1-e】	2025年度_実施要項
【3-1-f】	入試結果 DATA
3-2. 学修支援	
学修支援に関する方針・計画	
【3-2-01】	開志専門職大学 学生委員会規程
学修支援に関する会議体の規則	
【3-2-01】	開志専門職大学 学生委員会規程
TA、SA などに関する規則	
【3-2-02】	SA 制度運用規程
オフィスアワーを学生に周知したこと示す文書	
【3-2-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 34)
障がいのある学生への学修支援に関する方針・計画、実施状況	
【3-2-04】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 12、pp. 159-161)
退学、休学、留年などの実態及び原因分析、改善方策などを検討する会議体の規則	
【3-2-01】	開志専門職大学 学生委員会規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【3-2-a】	学生フォロー面談
【3-2-b】	総務会資料_2024年度保護者会実施報告
【3-2-c】	事業創造学部_学生状況報告
【3-2-d】	情報学部_学生状況報告
【3-2-e】	アニメ・マンガ学部_学生状況報告
【3-2-f】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 12-13)
【3-2-g】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 14-15)
【3-2-h】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 34-35)
【3-2-i】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 110-111)
【3-2-j】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 12)

開志専門職大学

3-3. キャリア支援	
キャリア支援に関する授業科目名一覧	
【3-3-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.48-49、98-99)
【3-3-02】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)
【3-3-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.64-65、110-111)
キャリア支援に関する方針・計画	
【3-3-04】	開志専門職大学 キャリアセンター運営規程
キャリア支援に関する会議体の規則	
【3-3-04】	開志専門職大学 キャリアセンター運営規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【3-3-a】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.112-114)
【3-3-b】	大学HP「卒業生の皆さんへ」 https://kaishi-pu.ac.jp/graduate/
【3-3-c】	2024年度事業創造学部キャリアセンター教授会資料
【3-3-d】	臨地実務実習先企業就職割合
【3-3-e】	2024年度情報学部キャリアセンター教授会資料
【3-3-f】	受賞大学等取組概要（令和5年度）
【3-3-g】	2024年度アニメ・マンガ学部キャリアセンター教授会資料
【3-3-h】	キャリアデザイン3_スケジュール
【3-3-i】	2025年卒_3_学部進路
【3-3-j】	2026年卒_卒業後の進路に関するアンケート（2024年7月・抜粋）
【3-3-k】	キャラクターデザイン分野_学生受賞コンテスト一覧
【3-3-l】	2024年度事業報告書（pp.23-25）
【3-3-m】	出張マンガ編集部リスト
3-4. 学生サービス	
学生生活支援に関する方針・計画	
【3-4-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.8-12)
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【3-4-a】	セルフプロデュースラボ実施案内
3-5. 学修環境の整備	
施設・設備の管理に関する規則	
【3-5-01】	開志専門職大学 事務組織規程
ICT環境について学生に周知したことを示す文書	
【3-5-02】	KAISHI Campus Guide 2024 (p.13、pp.122-124、126-138)
図書館に関する規則	

【3-5-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.115-118)
図書館利用案内	
【3-5-04】	図書館案内(新入生オリエンテーション資料)
建物の耐震化率を示す文書	
【3-5-05】	大学HP「情報公開」内、「校舎等の耐震化率」 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【3-5-a】	開志専門職大学 図書委員会規程
【3-5-b】	2023 年度図書館利用状況報告
【3-5-c】	2024 年度図書館利用状況報告

基準 4. 教育課程

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
4-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	
学生にディプロマ・ポリシーの内容を説明する文書など	
【4-1-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 25、p. 75)
【4-1-04】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 26、p. 65)
【4-1-05】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 27)
ディプロマ・ポリシーを示す部分の URL	
【4-1-02】	大学HP「ディプロマ・ポリシー」 https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/openinfo/diploma-policy.pdf?ver=2
学位規則、学位審査基準	
【4-1-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 147)
進級・卒業・単位認定に関する規則	
【4-1-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 147)
【4-1-06】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 46、95、144、162)
【4-1-07】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 25、75、144)
【4-1-08】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 98-99)
【4-1-09】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 143)
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【4-1-a】	2024 年度新課程用シラバス執筆ガイド
【4-1-b】	2024 年度第 11 回事業創造学部教授会議事録
【4-1-c】	2024 年度第 11 回情報学部教授会議事録
【4-1-d】	2024 年度アニメ・マンガ学部臨時教授会資料 卒業判定会議資料
【4-1-e】	第 19 回総務会議事録
4-2. 教育課程及び教授方法	
学生にカリキュラム・ポリシーの内容を説明する文書など	

開志専門職大学

【4-2-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 25、75)
【4-2-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 147)
【4-2-04】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 26、76)
【4-2-05】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 27)
カリキュラム・ポリシーを示す部分の URL	
【4-2-02】	大学 HP「カリキュラム・ポリシー」 https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/openinfo/curriculum-policy.pdf?ver=2
教育課程の体系的編成を示すカリキュラムマップやカリキュラムツリーなど	
【4-2-06】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 48-49、98-99)
【4-2-07】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 58-59、104-105)
【4-2-08】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 66-67)
【4-2-18】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 98-99)
【4-2-19】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 104-105)
【4-2-20】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 110-111)
履修に関する規則	
【4-2-10】	KAISHI Campus Guide 2024 (p. 143)
【4-2-11】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 29、78)
シラバス作成に関して教員に周知したことを示す文書	
【4-2-09】	2024 年度新課程用シラバス執筆ガイド
教育課程連携協議会の議事録（専門職大学のみ）	
【4-2-12】	第 8 回開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会議事録
【4-2-13】	第 9 回開志専門職大学 事業創造学部 教育課程連携協議会議事録
【4-2-14】	2024 年度前期 開志専門職大学 情報学部 教育課程連携協議会議事要旨
【4-2-15】	2024 年度後期 開志専門職大学 情報学部 教育課程連携協議会議事要旨
【4-2-16】	2024 年度第 1 回開志専門職大学 アニメ・マンガ学部 教育課程連携協議会議事録
【4-2-17】	2024 年度第 2 回開志専門職大学 アニメ・マンガ学部 教育課程連携協議会議事録
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【4-2-a】	開志専門職大学 教務委員会規程
【4-2-b】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 50-51、100-101)
【4-2-c】	基礎ゼミ授業計画表
【4-2-d】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 60-61、106-107)
【4-2-e】	基礎ゼミ I シラバス
【4-2-f】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 68-69)
【4-2-g】	「学生のニーズに応えるグループワークの授業方法」（2024 年 5 月 15 日（水）FD・SD 研修）
【4-2-h】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 54-56、p. 102)
【4-2-i】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 60-61、106-107)
【4-2-j】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp. 62-64、p. 108)

【4-2-k】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.44-45)
4-3. 学修成果の把握・評価	
大学が求める学修成果を示す文書など	
【4-3-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.98-99)
【4-3-02】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)
【4-3-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.66-67)
大学が求める学修成果の内容を学生に説明する文書など	
【4-3-01】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.98-99)
【4-3-02】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.58-59、104-105)
【4-3-03】	KAISHI Campus Guide 2024 (pp.66-67)
学修成果の把握・評価のために実施した調査と分析の結果	
【4-3-04】	2023 年度採用企業・卒業生アンケート
【4-3-05】	卒業生と就職先企業の実態調査の取り扱いについて
学修成果の把握・評価の結果を、教育内容、方法及び学修指導の改善にフィードバックすることを検討する 会議体の議事録	
【4-3-06】	2024 年度第 4 回 FD・SD 委員会議事録
【4-3-07】	2024 年度第 6 回 FD・SD 委員会議事録
【4-3-08】	2024 年度第 9 回 FD・SD 委員会議事録
【4-3-09】	2024 年度第 12 回 FD・SD 委員会議事録
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【4-3-a】	【教員の皆さんへ】授業評価アンケート実施のお願い
【4-3-b】	2024 年度 FD・SD 研修会実施スケジュール
【4-3-c】	2025 年度 FD・SD 研修会実施スケジュール
【4-3-d】	FD・SD 委員会 (2024 年度活動方針)

基準 5. 教員・職員

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
5-1. 教育研究活動のための管理運営の機能性	
大学の意思決定に関する組織図	
【5-1-01】	2024 年度 (令和 6 年度) 開志専門職大学 組織図
学長の職務権限に関する規則	
【5-1-02】	開志専門職大学学則 (第 7 条)
教授会に関する規則	
【5-1-02】	開志専門職大学学則 (第 7 条)
学生の退学、停学及び訓告の処分の手続きが学長によって定められていることを示す文書	

開志専門職大学

【5-1-02】	開志専門職大学学則（第7条）
大学の意思決定に関する会議体の規則	
【5-1-03】	開志専門職大学 総務会規程
事務局組織図	
【5-1-04】	開志専門職大学 事務組織規程
事務分掌に関する規則	
【5-1-04】	開志専門職大学 事務組織規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【5-1-a】	職員昇格選考規程
【5-1-b】	職能グレード制度規程
【5-1-c】	職能グレード定義
5-2. 教員の配置	
教員の採用・昇任の方針・規則	
【5-2-01】	開志専門職大学 教員選考規程
【5-2-02】	教員採用募集要項（HP掲載）
教員人事に関する会議体の規則	
【5-2-01】	開志専門職大学 教員選考規程
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【5-2-a】	大学HP「情報公開」内「教員に関する情報」 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
【5-2-b】	設置の趣旨等を記載した書類（抜粋）事業創造学部、情報学部
【5-2-c】	設置の趣旨等を記載した書類（抜粋）アニメ・マンガ学部
5-3. 教員・職員の研修・職能開発	
FD・SDの実施報告書	
【5-3-01】	2024年度第4回FD・SD委員会議事録
【5-3-02】	2024年度第6回FD・SD委員会議事録
【5-3-03】	2024年度第9回FD・SD委員会議事録
【5-3-04】	2024年度第12回FD・SD委員会議事録
【5-3-07】	2024年度第11回FD・SD委員会議事録
【5-3-08】	2025年度第1回FD・SD委員会議事録
FD・SDの方針・計画	
【5-3-05】	2024年度FD・SD研修会実施スケジュール
【5-3-06】	開志専門職大学 FD・SD委員会規程
【5-3-09】	2025年度第1回FD・SD委員会資料5_2024年度FD・SD研修会 年間スケジュール
【5-3-10】	2025年度第1回FD・SD委員会資料6_2025年度FD・SD研修会 年間スケジュール案

開志専門職大学

自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【5-3-a】	学期末授業評価アンケート結果（2024 年度 第 1・2 学期） https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/lesson_questionnaire2024.pdf
【5-3-b】	【教員の皆さんへ】授業評価アンケート実施のお願い
5-4. 研究支援	
研究倫理に関する規則	
【5-4-01】	開志専門職大学 倫理委員会規程
【5-4-02】	開志専門職大学 ヒトを対象とする研究規程
【5-4-03】	別紙様式第 1_ヒトを対象とする研究倫理審査申請書
【5-4-04】	別紙様式第 3_研究協力のお願
【5-4-05】	別紙様式第 4_研究協力者同意書
【5-4-06】	開志専門職大学における研究活動に係る不正行為の防止および対応に関する規程
【5-4-07】	開志専門職大学 研究活動に係る行動規範
【5-4-08】	開志専門職大学 個人研究費取扱規程
【5-4-09】	開志専門職大学 公的研究費不正使用防止計画
【5-4-10】	開志専門職大学 公的研究費の不正使用防止に関する規程
【5-4-11】	公的研究費の運営・管理（不正使用防止）に関わる者の責任の範囲と権限
【5-4-12】	研究倫理教育の受講に関する内規
【5-4-13】	研究倫理 e ラーニング修了状況
【5-4-14】	誓約書
研究費の適正利用に関するマニュアル	
【5-4-08】	開志専門職大学 個人研究費取扱規程
研究活動への資源配分に関する規則	
【5-4-08】	開志専門職大学 個人研究費取扱規程
科研費などの申請のために必要な情報を学内に周知したことを示す文書	
【5-4-15】	20220518 FD・SD 研修会資料
【5-4-16】	20241030 FD・SD 研修会資料
【5-4-17】	20250618 FD・SD 研修会資料
【5-4-18】	研究推進ポータルサイト
外部資金応募・獲得の実績一覧	
【5-4-19】	2020-2025 科研費獲得者一覧
【5-4-20】	科研費以外の外部研究費年度別獲得状況
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【5-4-a】	開志専門職大学 イノベーション力研究規程

開志専門職大学

【5-4-b】	2023 年度「イノベーション力研究」募集要項
【5-4-c】	「イノベーション力研究 Vol.2」発行総務会報告
【5-4-d】	「イノベーション力研究所 研究発表会」（企画書）
【5-4-e】	開志専門職大学 起業家教育研究センター規程
【5-4-f】	OpenGateNIIGATA2024 パンフレット
【5-4-g】	【教授会報告】 起業家教育研究センター
【5-4-h】	障害体験イベントチラシ
【5-4-i】	開志未来創造研究センター 2024 年度活動報告・2025 年度活動計画
【5-4-j】	経営情報学会スポーツデータエコシステム研究分科会の案内
【5-4-k】	開志専門職大学 KAISHI LAB 規程
【5-4-l】	2024 年度 KAISHI LAB 年間入館者数_2025_03 教授会報告資料
【5-4-m】	KAISHI LAB 機材利用申請書
【5-4-n】	2024 年度 WORKS エリア追加機材及びメンテナンス作業について。
【5-4-o】	KAISHI LAB 6 月度報告事項
【5-4-p】	KAISHI LAB 7 月度報告事項
【5-4-q】	KAISHI LAB 8 月度報告事項
【5-4-r】	KAISHI LAB 10 月度報告事項
【5-4-s】	KAISHI LAB 11 月度報告事項
【5-4-t】	情報学部 3 年生によるものづくりイベント
【5-4-u】	Bluetooth スピーカー制作イベント
【5-4-v】	3D モデリングイベント
【5-4-w】	【DMM.make AKIBA × KAISHI LAB】 ミュージックボックス製作イベントを実施しました
【5-4-x】	【DMM.make AKIBA】 電子工作入門講座を開催しました
【5-4-y】	2024 年度第 10 回 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
【5-4-z】	2024 年度第 4 回 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
【5-4-a1】	2024 年度第 6 回 KAISHI LAB 運用 MTG 議事録
【5-4-b1】	第 3 回 燕三条医工連携デザインコンペティションにて情報学部学生がグランプリを受賞
【5-4-c1】	開志専門職大学 数理・データサイエンスセンター規程
【5-4-d1】	数理・データサイエンスセンター備品管理
【5-4-e1】	2024 年度第 4 回数理・データサイエンスセンター会議議事要旨
【5-4-f1】	開志専門職大学 新潟視覚芸術研究所規程
【5-4-g1】	20240426 映像編集特別講義「ゴジラ-1.0」についての編集技術
【5-4-h1】	20240907 コラボレーション・スペシャルトークイベント

開志専門職大学

【5-4-i1】	20240224 参考試写つき研究トークイベント「文学研究とアニメ研究の横断的交流——アニメ映画『片腕』を通して」
【5-4-j1】	20250304 田中絹代女優デビュー100周年企画
【5-4-k1】	20250323 オンライントークイベント「マンガをめぐるジャーナリズムの現在」
【5-4-l1】	真木太郎氏インタビューWeb版①
【5-4-m1】	竹内孝次氏インタビューWeb版①
【5-4-n1】	2024年度第1回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
【5-4-o1】	2024年度第2回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
【5-4-p1】	2024年度第3回アニメ・マンガ学部「紀要」編集委員会議事録
【5-4-q1】	開志専門職大学 アニメ・マンガ学部紀要編集委員会規程
【5-4-r1】	開志専門職大学 アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 要項・投稿規定
【5-4-s1】	新潟総合学園・新潟総合学院機関リポジトリ https://nsg.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=custom_sort&search_type=0&q=0&search
【5-4-t1】	開志専門職大学アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 第1号(抜粋)
【5-4-u1】	開志専門職大学アニメ・マンガ学部紀要 視聴覚物語芸術研究 第2号(抜粋)
【5-4-v1】	紀要送付先リスト アニメ・マンガ学部紀要編集委員会
【5-4-w1】	紀要第2号 総合制作研究実習リスト掲載について(学生告知用)
【5-4-x1】	アニメ・マンガ学部紀要第2号 表紙イラスト募集要項
【5-4-y1】	開志専門職大学 機関リポジトリ運用指針
【5-4-z1】	開志専門職大学 オープンアクセス方針
【5-4-a2】	開志専門職大学 開志未来創造研究センター規程
【5-4-b2】	認定 URA 証書

基準 6. 経営・管理と財務

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
6-1. 経営の規律と誠実性	
組織倫理に関する規則	
【6-1-01】	新潟総合学院 内部統制システムの基本方針
内部統制システムの基本方針	
【6-1-01】	新潟総合学院 内部統制システムの基本方針
危機管理に関する方針・規則	
【6-1-02】	学校法人新潟総合学院 危機管理規程
【6-1-06】	開志専門職大学 危機管理規程

開志専門職大学

情報公表に関する規則	
【6-1-03】	学校法人新潟総合学院 情報公開および計算書類等閲覧規程
学校教育法施行規則第 172 条の 2 に対応した部分の URL	
【6-1-04】	大学 HP「情報公開」 https://kaishi-pu.ac.jp/openinfo/
ハラスメント防止に関する規則	
【6-1-05】	開志専門職大学 ハラスメントの防止及び対策等に関するガイドライン
危機管理に関するマニュアル	
【6-1-07】	開志専門職大学 危機管理基本マニュアル
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【6-1-a】	学校法人新潟総合学院 理事の職務および決裁権限規程
【6-1-b】	学校法人新潟総合学院 コンプライアンス推進規程
【6-1-c】	学校法人新潟総合学院 事務組織規程
【6-1-d】	開志専門職大学 人権委員会規程
6-2. 理事会の機能	
理事を選任した際の会議体の議事録	
【6-2-01】	議事録（理事選任決議）※未提出 閲覧可
理事が職務執行状況を理事会に報告したことを示す文書	
【6-2-02】	資料（理事の職務執行状況報告）※未提出 閲覧可
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【6-2-a】	議事録（予算決議）※未提出 閲覧可
6-3. 管理運営の円滑化とチェック機能	
予算・決算を審議した際の評議員会の議事録	
【6-3-01】	議事録（決算承認）※未提出 閲覧可
【6-3-02】	議事録（補正予算承認）※未提出 閲覧可
評議員を選任した際の会議体の議事録	
【6-3-03】	議事録（評議員選任）※未提出 閲覧可
監事・会計監査人を選任した際の評議員会の議事録	
【6-3-04】	議事録（監事・会計監査人選任）※未提出 閲覧可
監事監査計画書	
【6-3-05】	監事監査計画書
監事監査に関する規則	
【6-3-06】	学校法人新潟総合学院 監事監査規程
6-4. 財務基盤と収支	

予算編成方針	
【6-4-01】	事業計画書
6-5. 会計	
経理に関する規則	
【6-5-01】	学校法人新潟総合学院 経理規程 ※非公開
自己点検評価書の記述内容に応じて提出する資料	
【6-5-a】	議事録（監事・会計監査人選任）※未提出 閲覧可

基準 A. 臨地実務実習の実施方法及び教育効果

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
A-1. 臨地実務実習の展開	
【A-1-01】	開志専門職大学 臨地実務実習委員会規程
【A-1-02】	第1回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-03】	第2回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-04】	第3回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-05】	第4回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-06】	第5回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-07】	第6回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-08】	第7回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-09】	第8回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-10】	第9回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-11】	第10回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-12】	第11回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-13】	第12回臨地実務実習委員会議事録
【A-1-14】	2024年度臨地実務実習委員会計画案 v0.6
【A-1-15】	専門職大学における産学協働の仕事統合型教育はイノベータを生むことができるか、成果と課題 (pp. 10-12)
【A-1-16】	2024年度アニメ・マンガ学部臨地実務実習委員会体制図
【A-1-17】	2024年度4学期臨地実務実習 全体オリエンテーション資料
A-2. 臨地実務実習の教育効果	

開志専門職大学

【A-1-18】	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
【A-1-19】	シラバス（企業内実習Ⅰ）
【A-1-20】	シラバス（企業内実習Ⅱ）
【A-1-21】	シラバス（企業内実習Ⅲ）
【A-1-22】	大学 HP 「教育改善に向けた企業および卒業生へのアンケート結果報告書」 https://kaishi-pu.ac.jp/wp/wp-content/themes/kaishi/assets/pdf/education_improvement_survey_2023.pdf
【A-1-23】	専門職大学における産学協働の仕事統合型教育はイノベータを生むことができるか、成果と課題（pp.13-14）
【A-1-24】	専門職大学における産学協働の仕事統合型教育はイノベータを生むことができるか、成果と課題（pp.16-17）
【A-1-25】	2025 情報 20250207

基準 B. 地域社会連携活動

基準項目	
コード	該当する資料名及び該当ページ
B-1. 地域貢献活動	
【B-1-01】	開志専門職大学 産官学連携・国際交流委員会規程
【B-1-02】	農業リカレント 委託業務完了報告書 開志専門職大学
【B-1-03】	NEC 包括連携協定書
【B-1-04】	NTT 共同研究 概要説明
【B-1-05】	シスココンサルティング共同研究 説明資料
【B-1-06】	第 17 回開志コラボセミナー
【B-1-07】	第 18 回開志コラボセミナー
【B-1-08】	第 19 回開志コラボセミナー
【B-1-09】	2024 年度事業報告書（p. 45）
【B-1-10】	OPEN GATE NIIGATA2024
【B-1-11】	2024 年度事業報告書（p. 47）
【B-1-12】	亀田製菓×開志専門職大学プロジェクト覚書
【B-1-13】	株式会社 Fusion'z 協定書
B-2. 社会連携活動	
【B-1-14】	パール金属株式会社と開志専門職大学事業創造学部におけるプロジェクト覚書
【B-1-15】	2024 年度事業報告書（p. 40）

開志専門職大学

【B-1-16】	SAJ エグゼクティブセミナー新潟 開志専門職大学
【B-1-17】	エグゼクティブセミナー申込者一覧 企業名
【B-1-18】	2024 年度事業報告書 (p. 21)
【B-1-19】	Niigata5 分 Tech 開催実績
【B-1-20】	子どもたちの真剣な表情を思いっきり楽しめるミラプロハッカソン大会
【B-1-21】	新潟初!小中学生が挑む熱いプログラミング競技「第4回ミラプロハッカソン」開催
【B-1-22】	情報学部 ICT 活用総合実習_VR で障がい体験イベント
【B-1-23】	新潟アニメ・マンガ・バレーを含めた構想による地域活性化モデル構築調査事業 有識者会議 要約
【B-1-24】	まんがブートキャンプ (プレミアムインバウンドツアー) 資料